

確定版

令和5年度 神納東地域 住民アンケート集計結果

実施時期 : 令和5 (2023) 年春
実施方法 : 調査票の個別配布・個別回収
配布数 : 1,078通
有効回答数 : 989通
有効回答率 : **91.7%**

かなり高い回答率！ (地域住民の意向がしっかりと反映されているデータ)

神林地区まちづくり協議会連絡会議/神納東地域まちづくり協議会

令和4年度 住民アンケート

- 本アンケートは、神林地区に暮らしている中学生以上の全住民を対象に実施するものです。一人ひとりからお考えを伺うことで、世代別・男女別の考え・ニーズを把握・整理し、これからの取り組みに反映していきます。
- 回答は無記名でお願いします。結果は、個人が特定されない形で集計・分析します。
- アンケート用紙は、お一人ずつ提出していただきますので、家族で意見が違って構いません。思っていることをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

(年齢) 1. 中学生～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 1. 男性 2. 女性

問2 家族構成について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 1人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子)
4. 三世帯以上同居 (親と子と孫など) 5. その他

問3 あなたの仕事にあてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 農業 2. 林業 3. 漁業 4. 自営業 5. 会社員 6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト 8. 専業主婦(夫) 9. 中学生 10. 高校生・高専生
11. 大学生・短大生・専門学校生 12. その他() 13. 無職

※仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか。(祝日を除く)

1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ 4. 平日 5. 不定期 6. その他

問4 日常の**主な交通手段**は何ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 自動車(自分で運転) 2. 自動車(送迎してもらう) 3. バイク(原付を含む) 4. バス
5. タクシー 6. のりあいタクシー 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他()

問5 あなたは**自動車運転免許**を持っていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

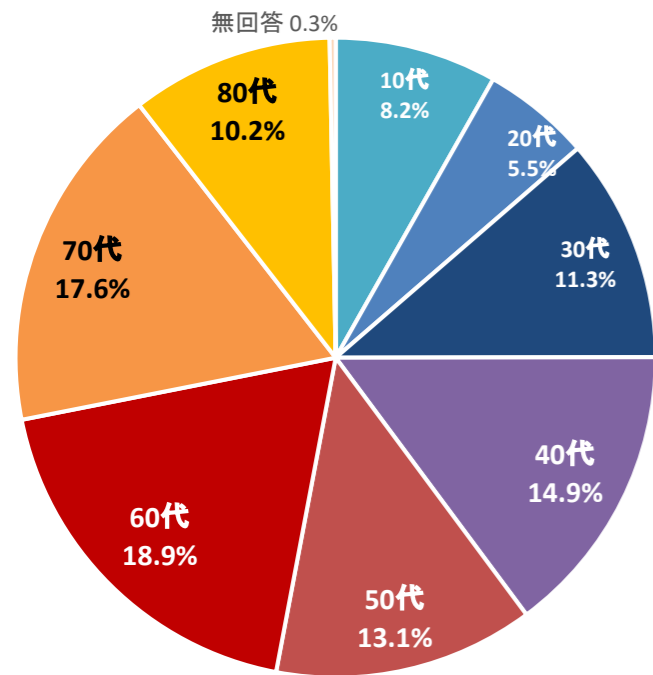
1. 持っている 2. 返納した 3. 持ったことはない 4. その他()

※免許を持っている方にお聞きします

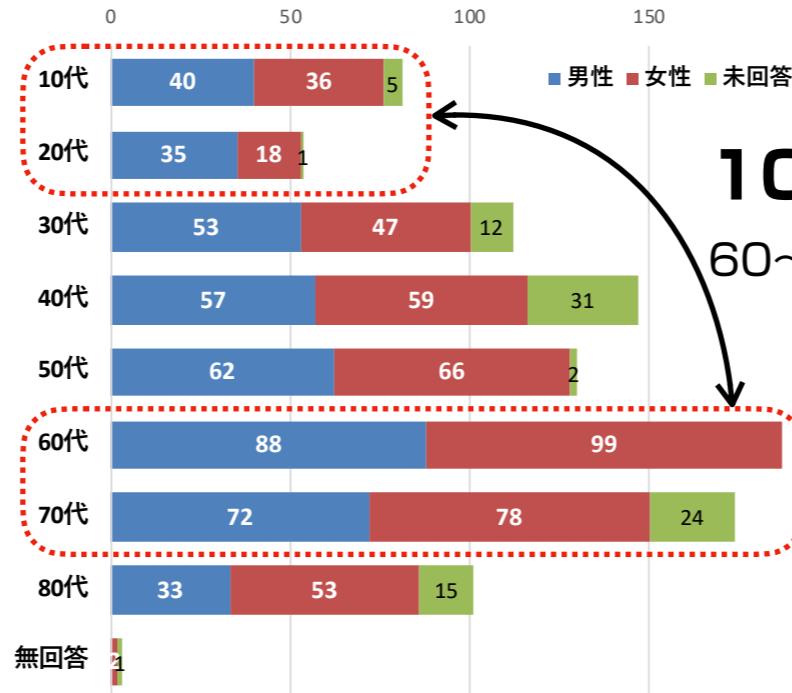
問5-2 自動車の**運転に不安**を感じることはありますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 不安は感じない 2. 夜間や冬期など不安を感じることはある
3. 友人や知人など乗せることに不安を感じる 4. その他()

回答者属性 (年代別)



回答者属性 (年代別×男女別)

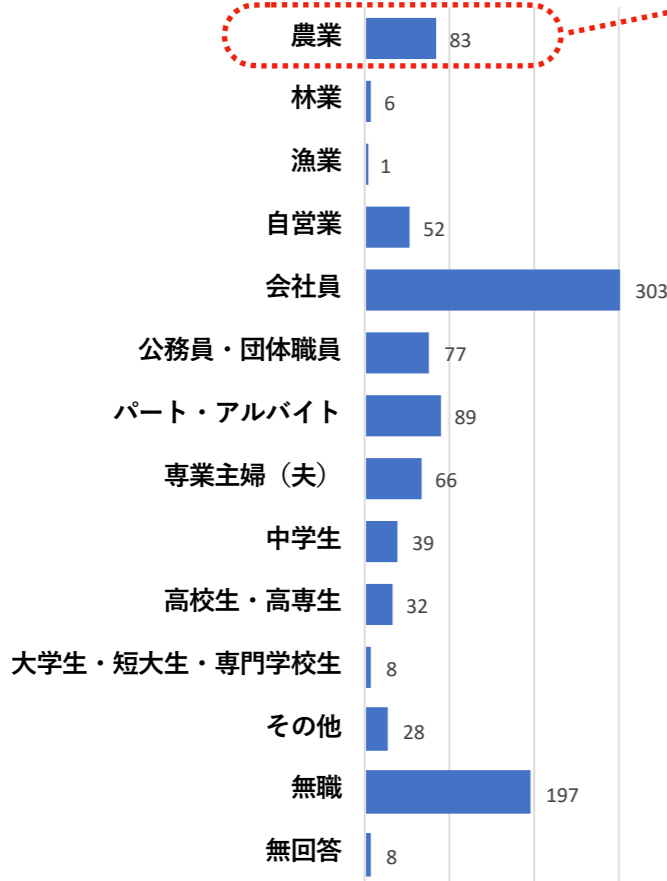


若者世代は少数派。
人数では年配層が完全に多数派。

10~20代は60~70代の4割以下

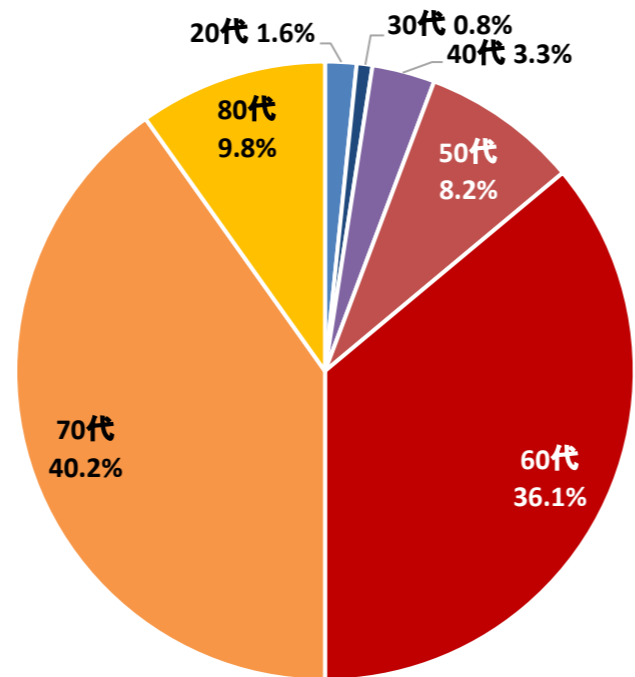
そのため、アンケート結果は、数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。

回答者属性 (職業)



農作業従事者の年代構成 (割合)

※専業83人+兼業39人=122人



農作業従事者の年代構成

年代	人数
10代	0
20代	2
30代	1
40代	4
50代	10
60代	44
70代	49
80代	12
計	122

農地の維持管理は将来どうなる？

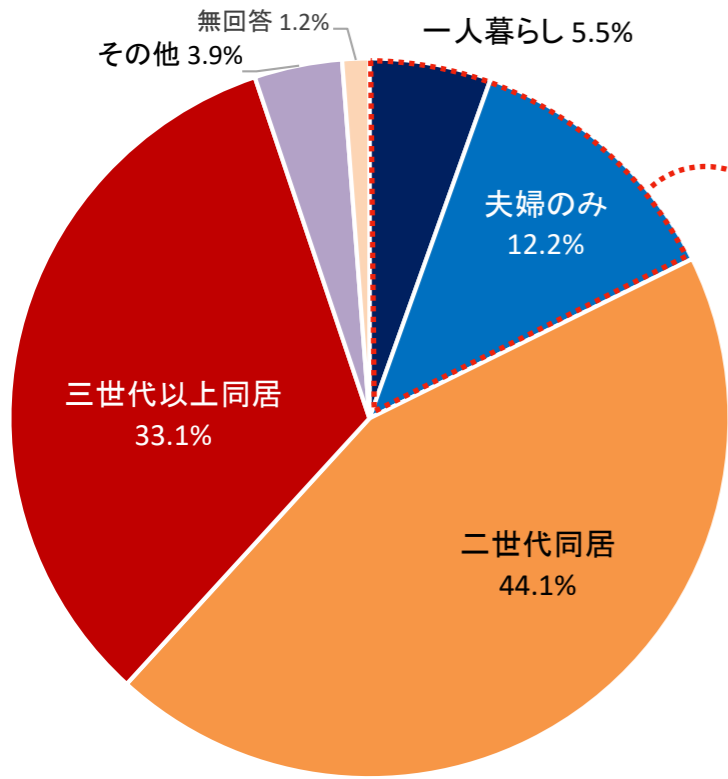
農作業従事者の86.1%が60代以上

20年後は30人程度!?

回答者属性 (家族構成)

村上市・神納東地域 (2023)

回答者属性 (世帯構成)

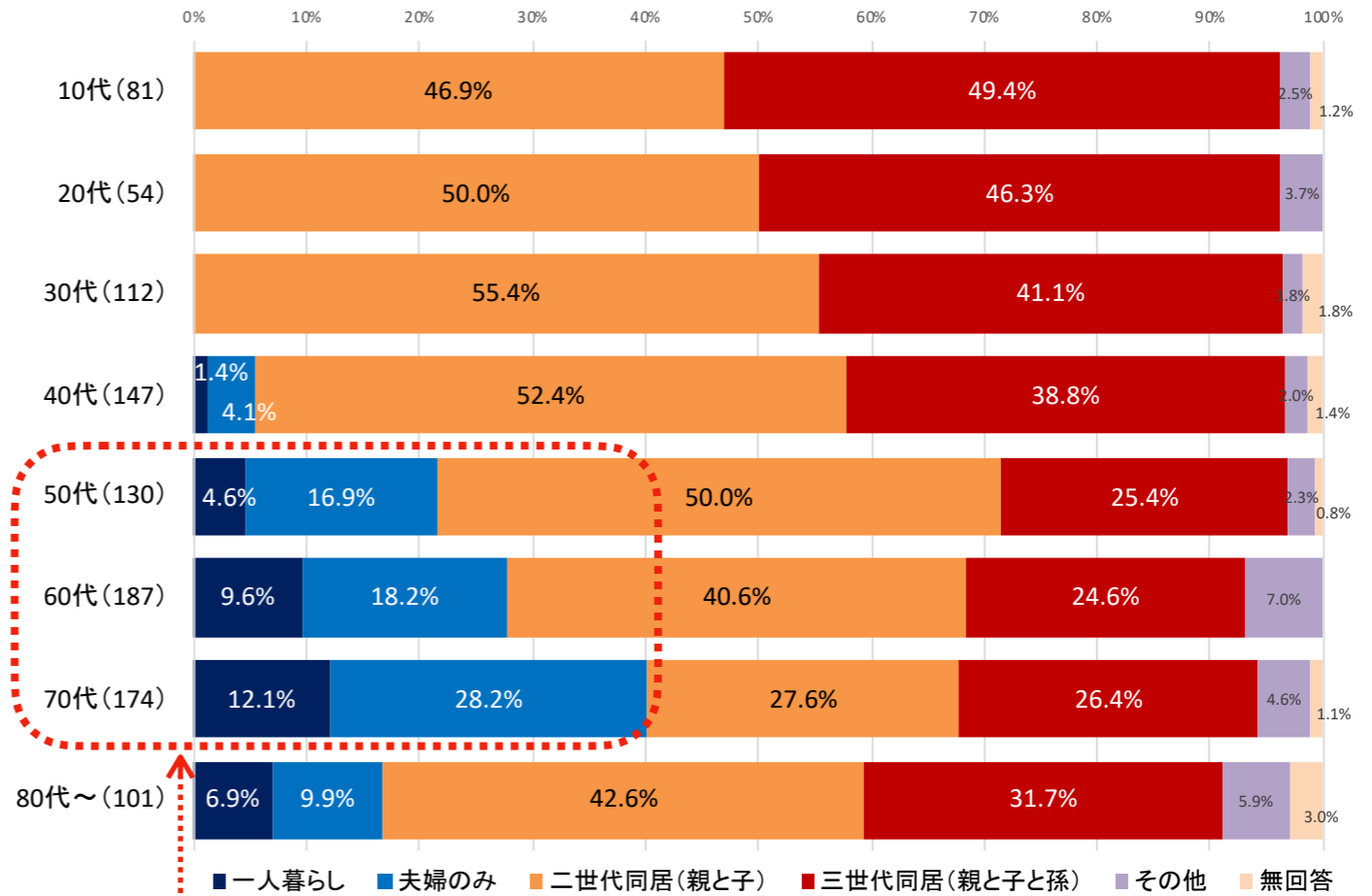


77.1%が親子世帯

単身+夫婦のみ世帯の年代構成をみると...

年代別の家族構成

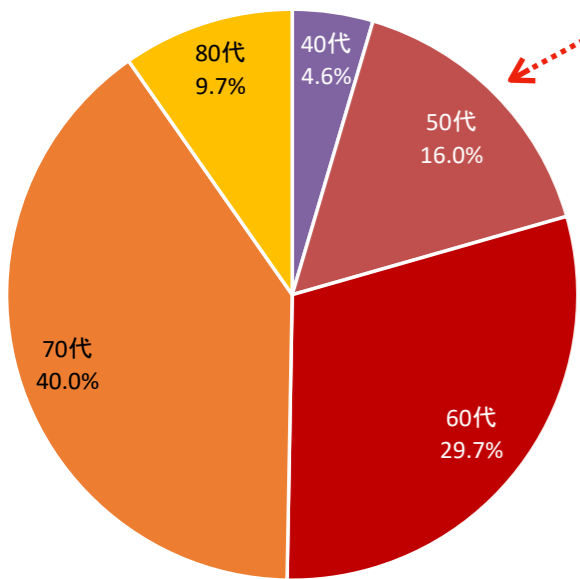
※括弧内の数値は回答者数



50~70代の2~4割は単身もしくは夫婦のみ世帯

単身及び夫婦のみ世帯の79.4%が60代以上

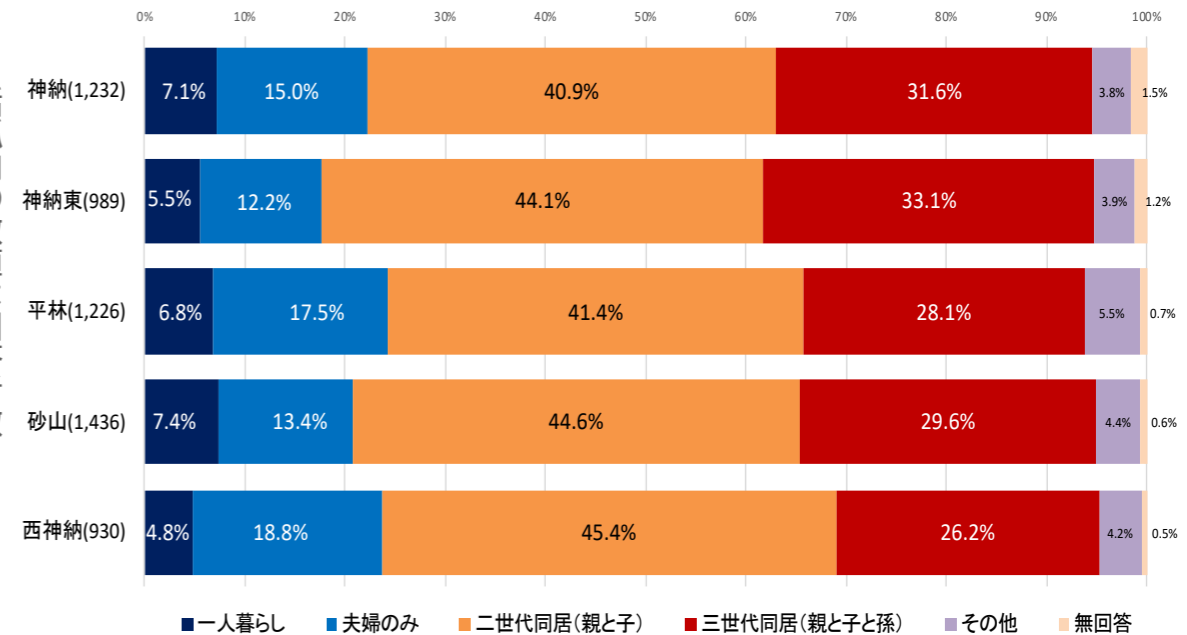
単身+夫婦のみ世帯は大半が高齢世帯!



単身+夫婦のみ世帯の年代構成

地域別の家族構成

※括弧内の数値は回答者数



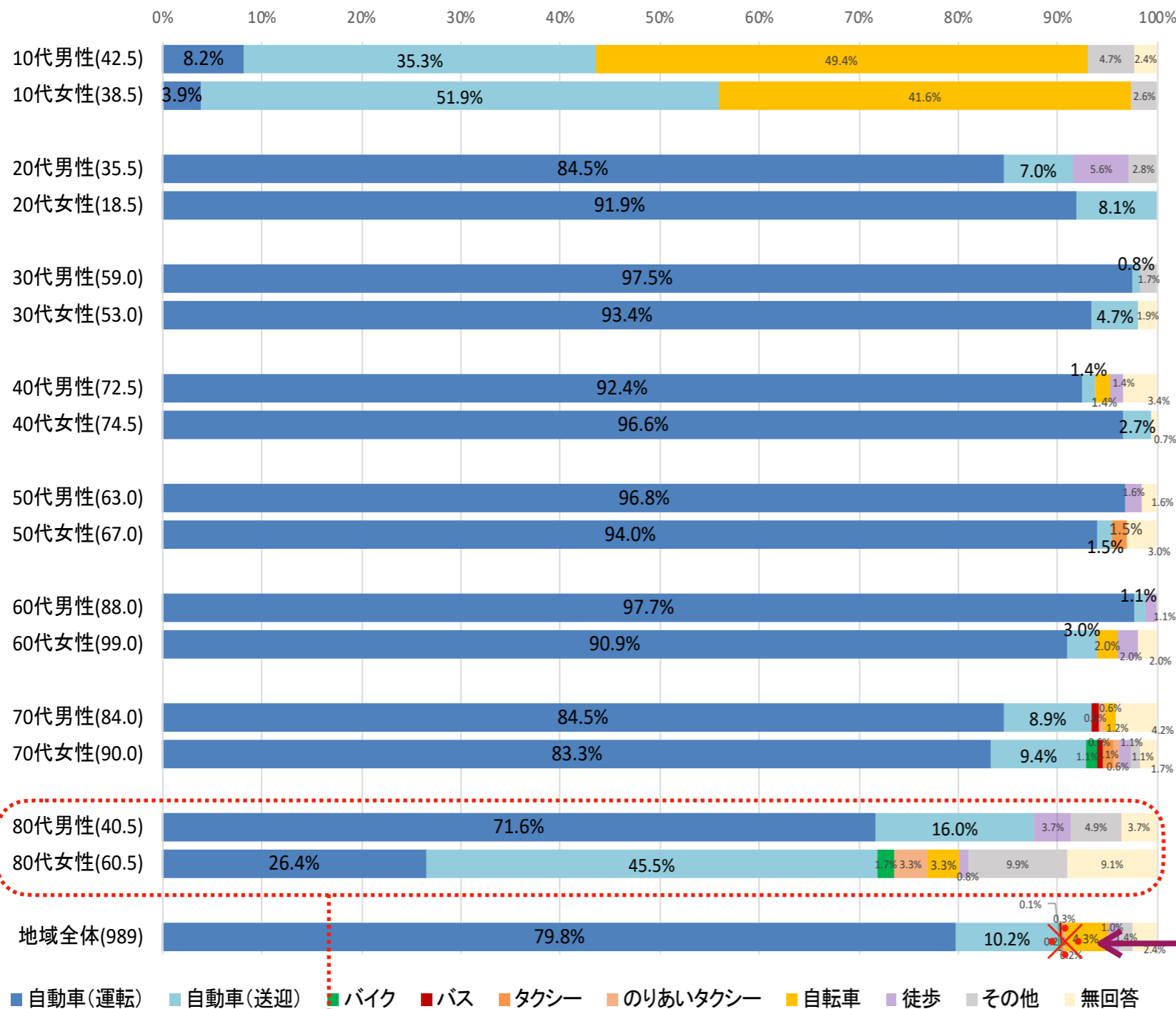
※神納東地域は三世帯以上同居の割合が地区内では最も高い

年代別・男女別の日常的な交通手段

村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））／主な交通手段1つを抽出して集計

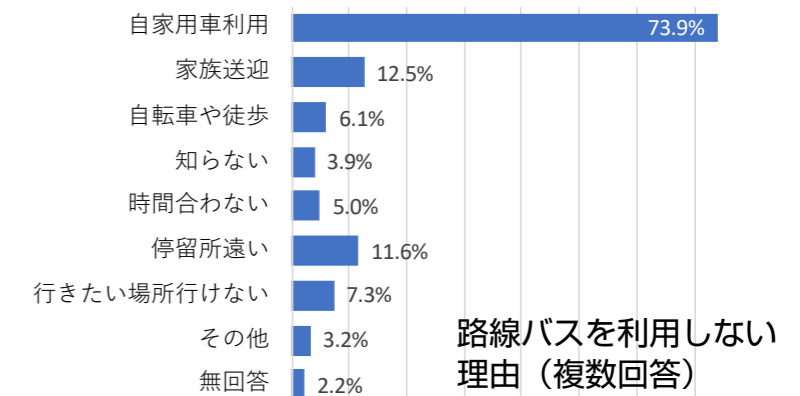
移動手段は自動車（自ら運転）が大半



公共交通は交通手段としてはほとんど挙がっていない

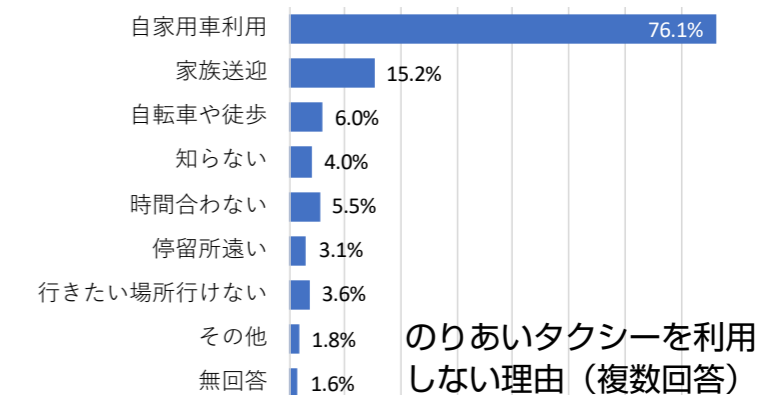
月数回以上、路線バスを利用する

6人／989人（全体の0.6%）
（年数回以上は7人（全体の0.7%））



月数回以上、のりあいタクシーを利用する

4人／989人（全体の0.4%）
（年数回以上は13人（全体の1.3%））



80代になると自動車（自ら運転）の割合が低下
女性は半数近くが「車での送迎」が主な移動手段に

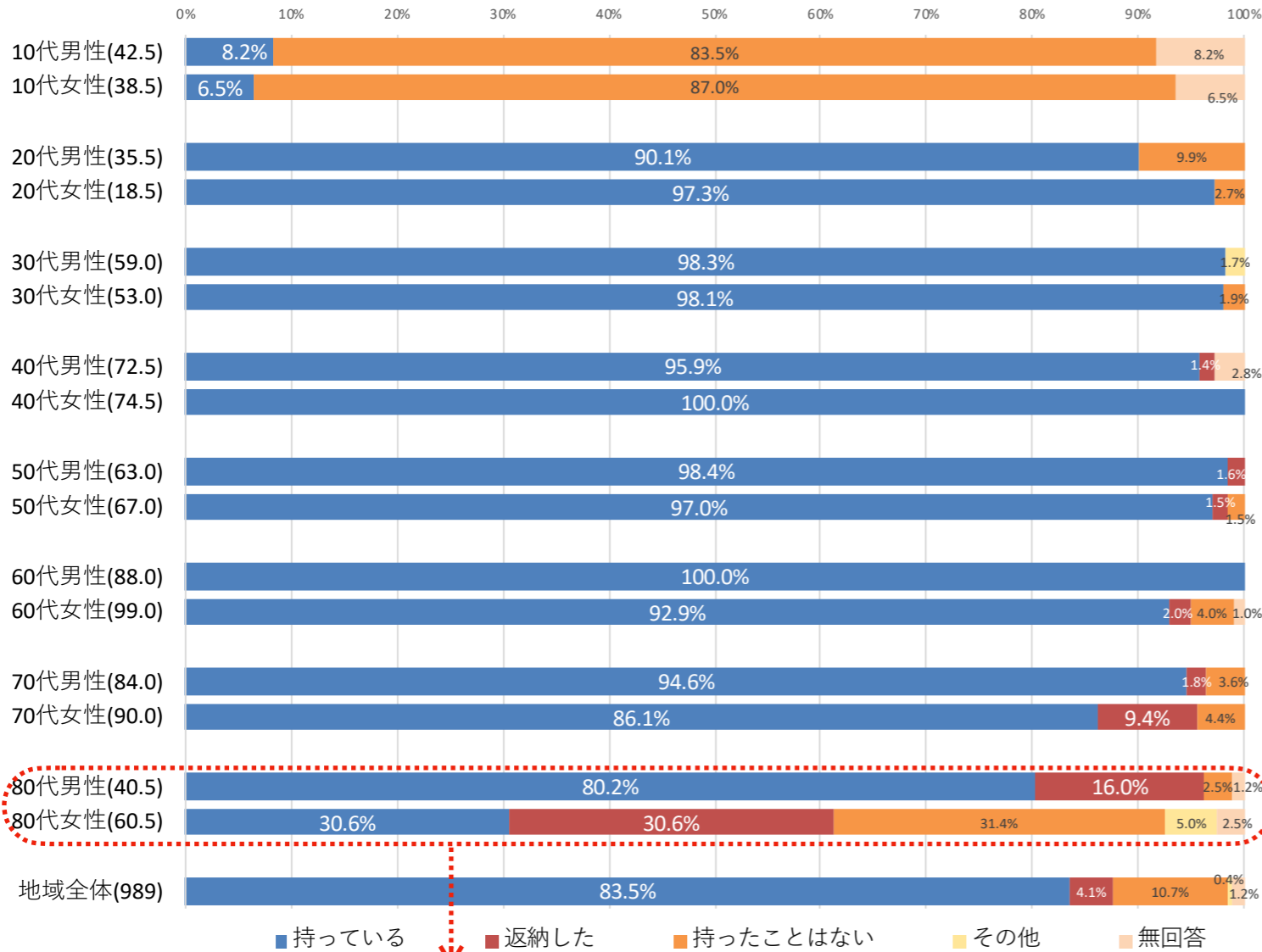


高齢になると親族等による自動車での送迎が
主な交通手段となっている。

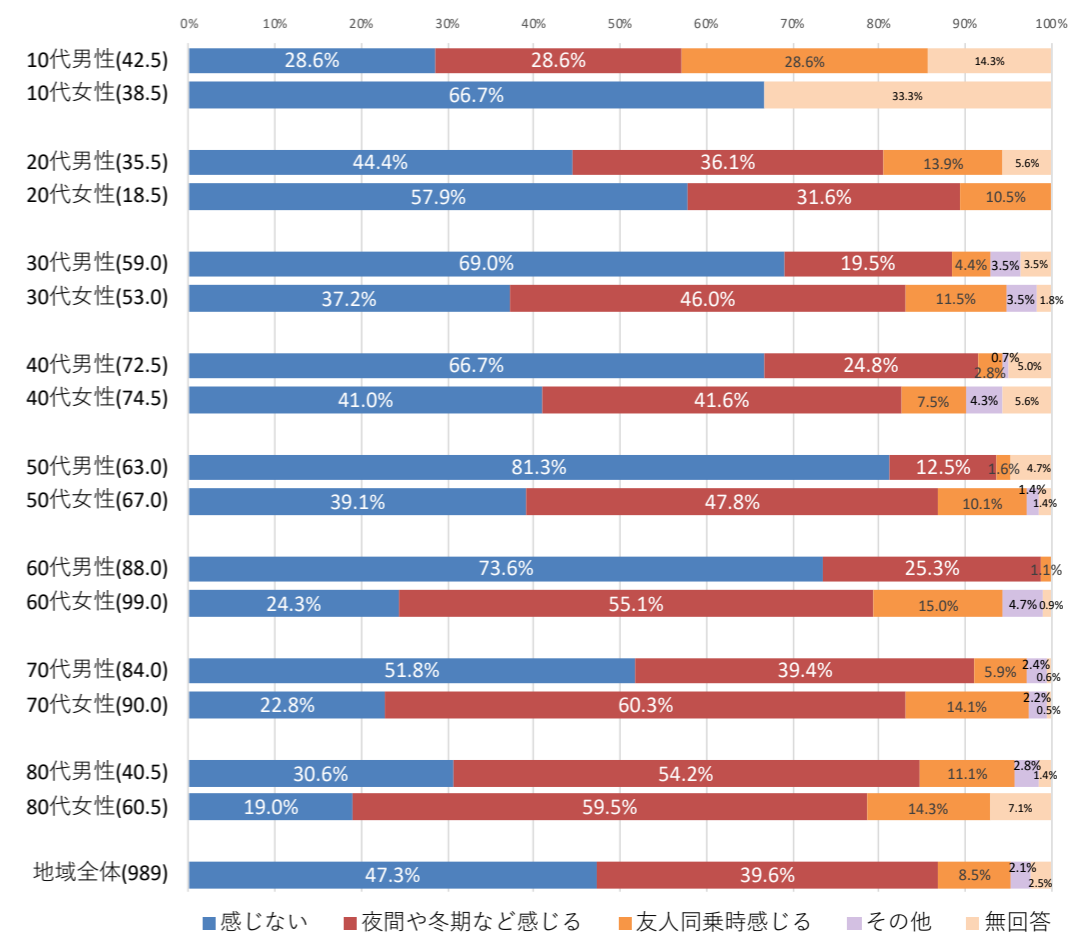
自動車運転免許保有状況

村上市・神納東地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



運転への不安



男性に比べ、女性は運転に不安を感じている割合が高い。（特に夜間や冬期）

80代になると免許なし（返納含む）の割合が増加

※80代女性は、免許返納が3割+もともと持っていないが3割

注意！

（今まで）
80代になり自分で車の運転ができなくなっても、**親族等による車での送迎**で移動手段は確保されてきた。

（これから）
今の70代以下は、**独居・夫婦のみ世帯が多い**。親族等による車での送迎を、今までと同じようにあてにできるか？

年代別の家族構成（再掲）

年代	一人暮らし	夫婦のみ	二世帯同居(親と子)	三世帯同居(親と子と孫)	その他	無回答
60代(187)	9.6%	18.2%	40.6%	24.6%	7.0%	
70代(174)	12.1%	28.2%	27.6%	26.4%	4.6%	1.1%
80代~(101)	6.9%	9.9%	42.6%	31.7%	5.9%	3.0%

ほとんど使われてはいないが、だからといって**公共交通はこのままで本当によいのか？!**

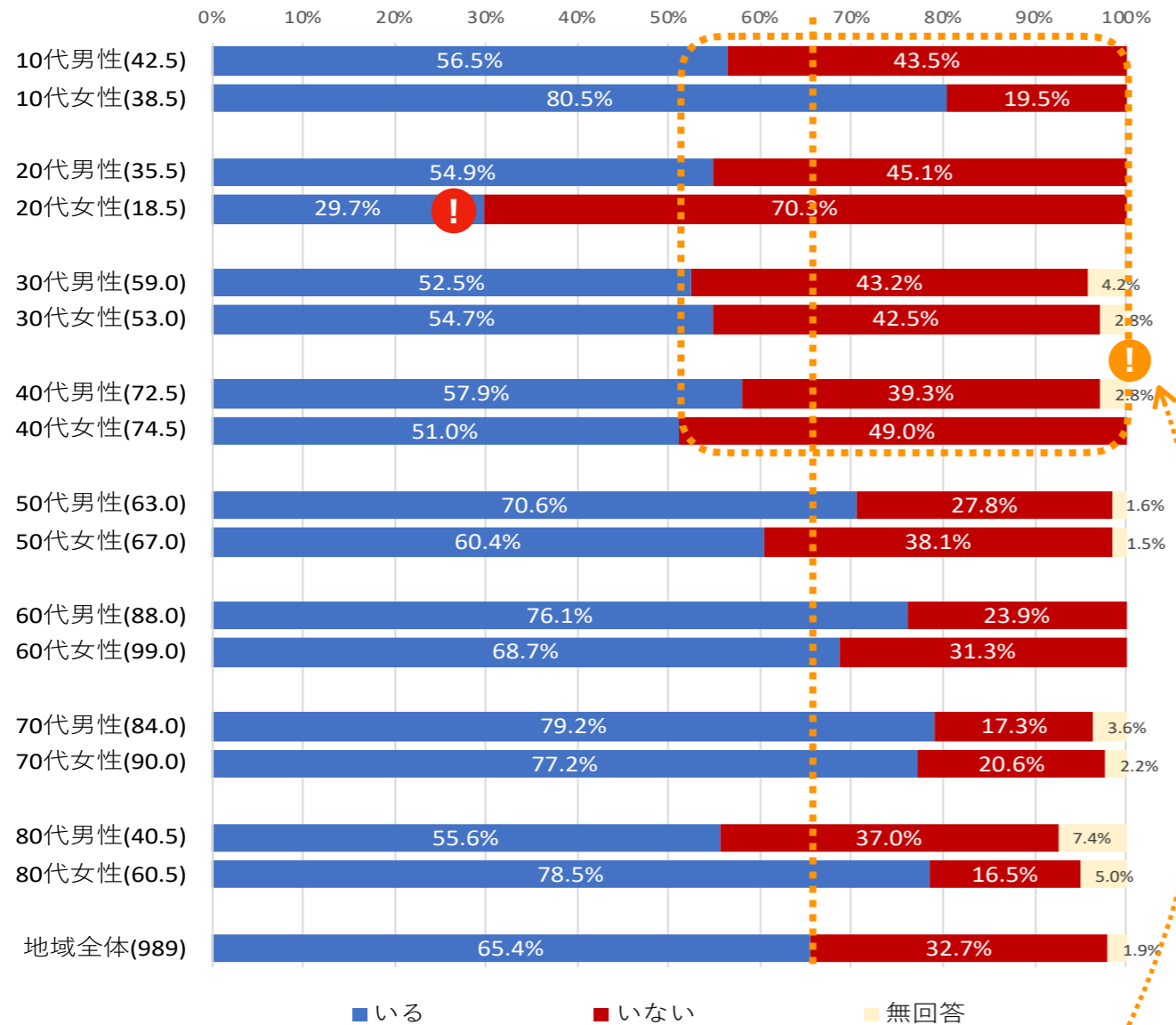
家族以外の相談相手の有無

村上市・神納東地域（2023）

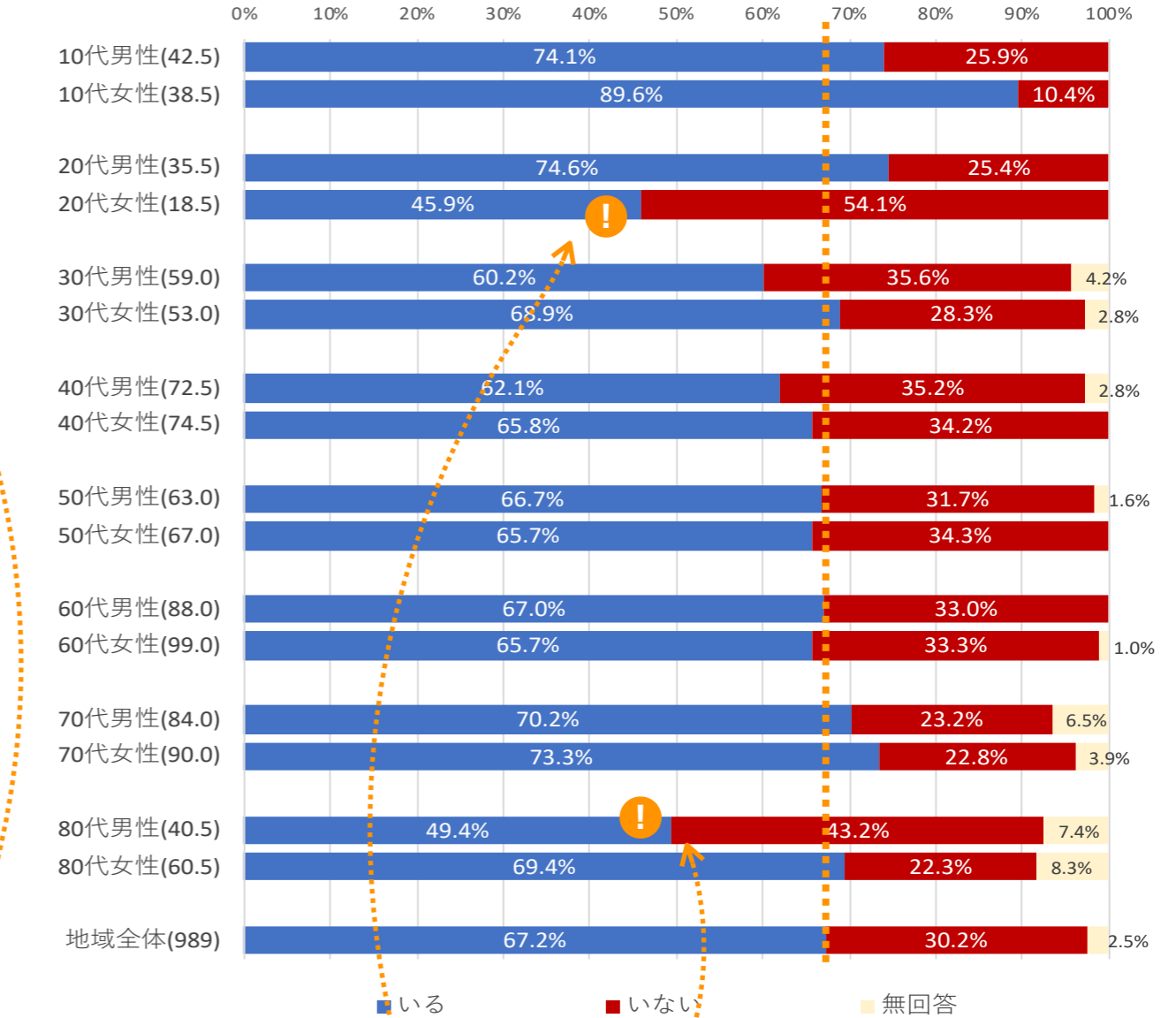
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいると回答

集落内



神林地区内



【注意】

20代女性は7割が集落内に相談相手がない
40代以下は集落内で相談相手がいる割合が平均以下

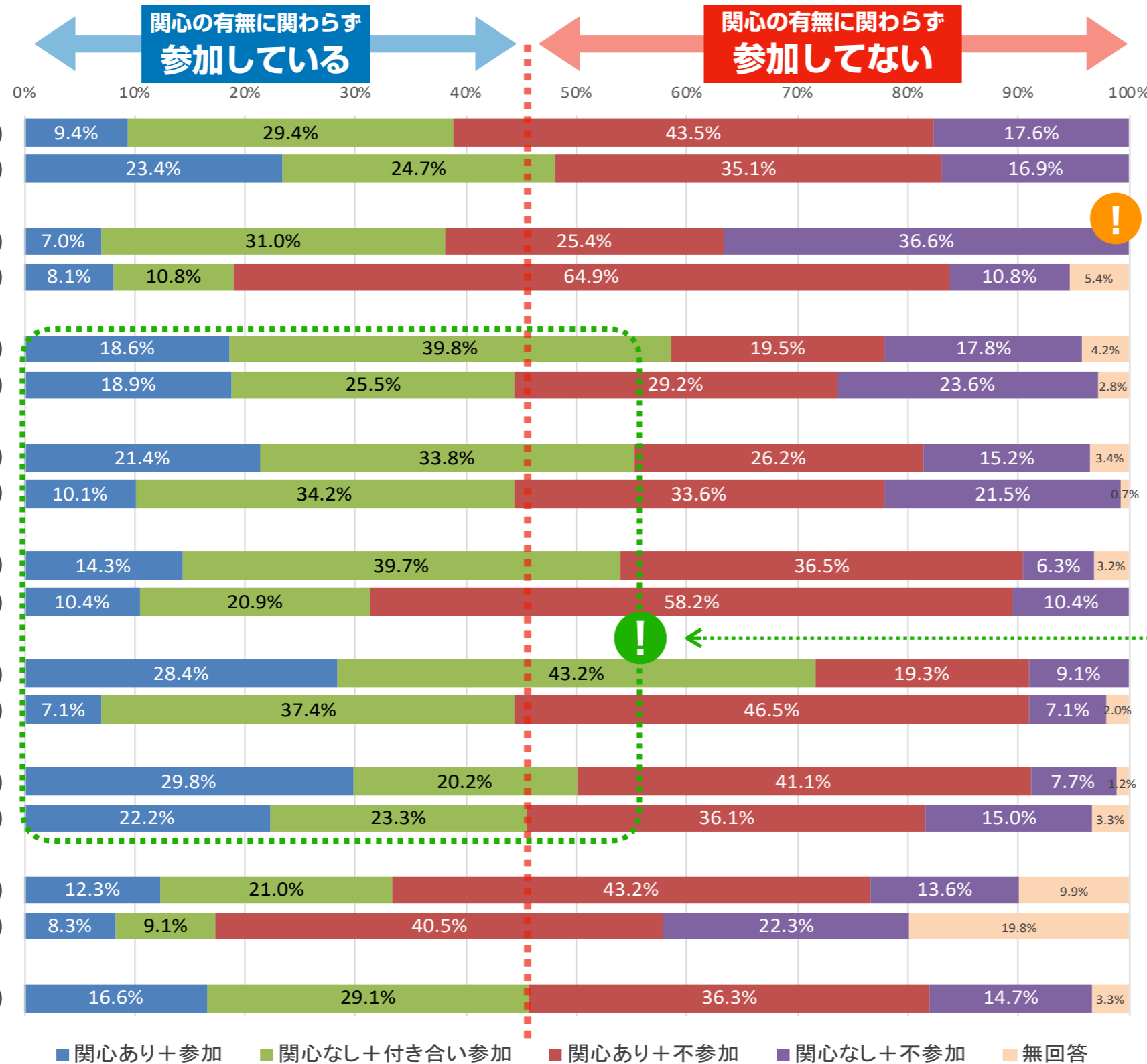
【注意】

20代女性・80代男性は
半数以上が地区内にも相談相手がない

地域活動への関心

村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



【注意！】
20代男性は
関心なし+不参加
が1/3以上

30～70代は
半数前後が参加している

関心あり+不参加は
どの年代でも
3～6割いる

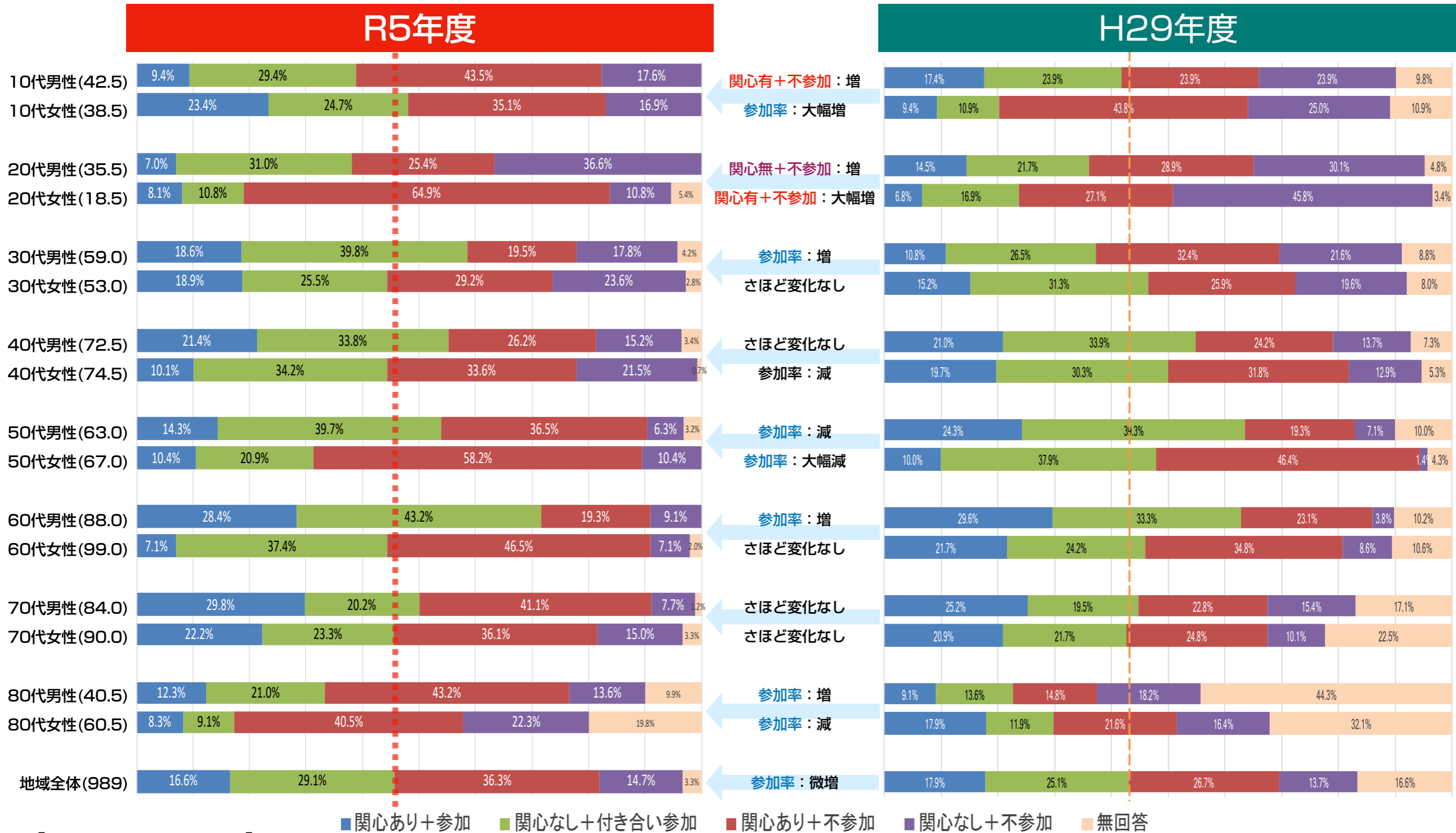
||
参加の機会・方法の
さらなる多様化を！

4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している
女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。

地域活動への関心（H29結果との比較）

村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



【H29→R5の変化】

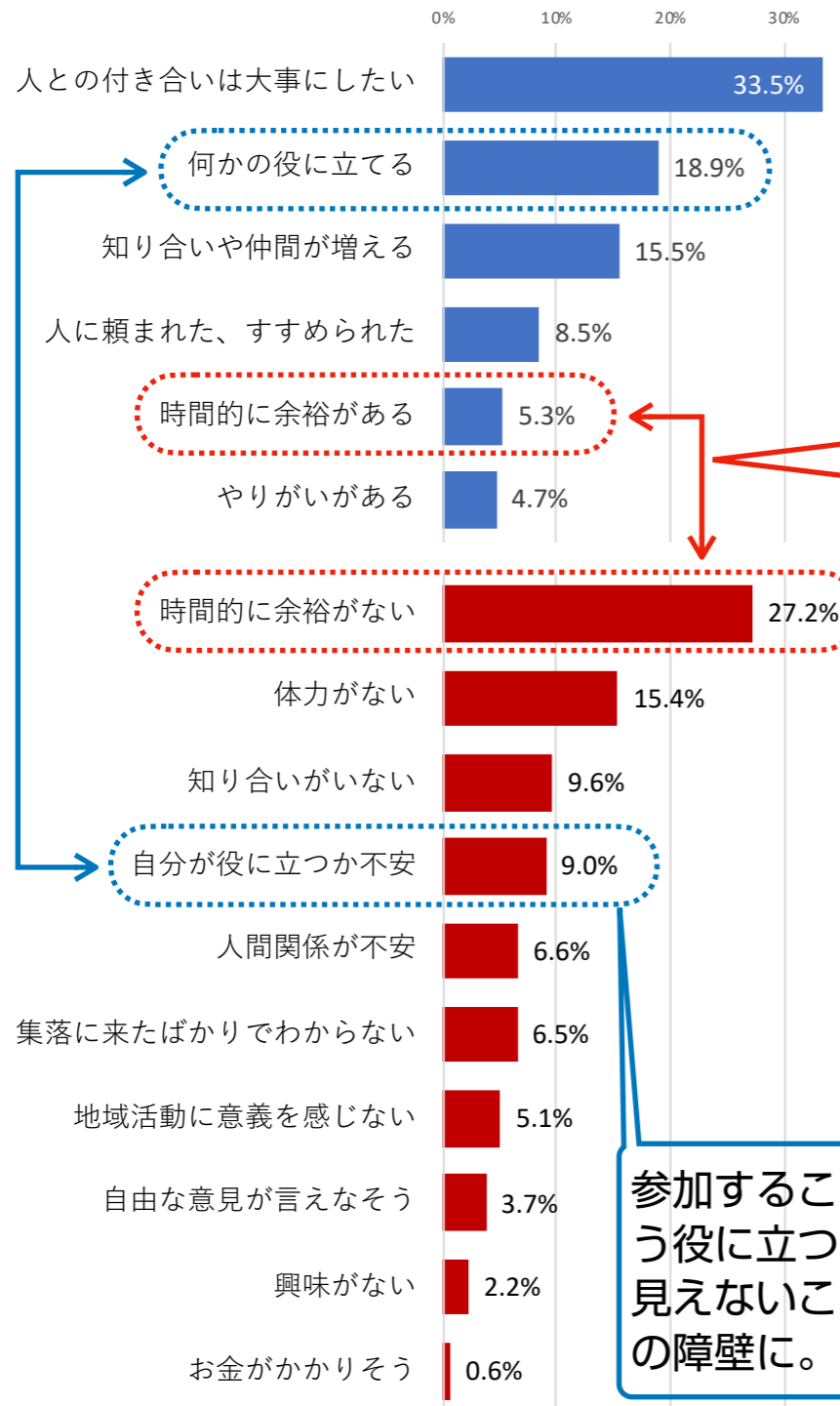
- 参加率（「関心あり+参加」および「関心なし+付き合い参加」を合算した割合）は微増
- 「関心なし+不参加」の割合が10～20代は減少しているが、20代男性・40代女性は増加

地域活動への関心 (回答理由)

※回答総数に対する回答割合 (割合が高いほど、多くの方が○を付けている) で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

参加している人の理由

参加していない人の理由



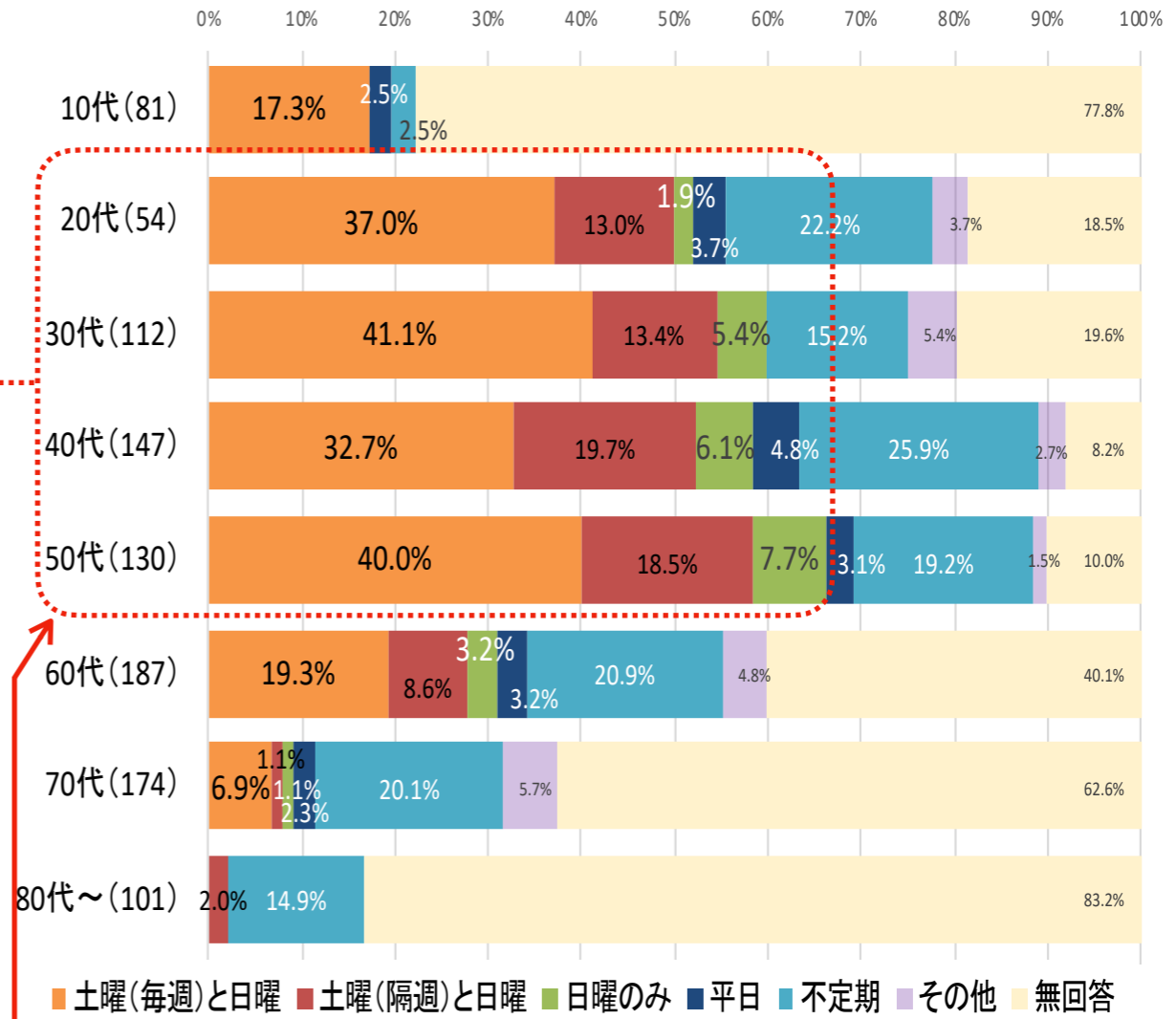
必ずしも、時間に余裕があるから参加している訳ではない。

働いている世代は、必ずしも土日が休みではない。多様な参加の方法・工夫・配慮が必要。

参加することで「どう役に立つのか」が見えないことが参加の障壁に。

休日はいつか？

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



20~50代は必ずしも土日は休みではない

土曜日が毎週休み **4割前後**

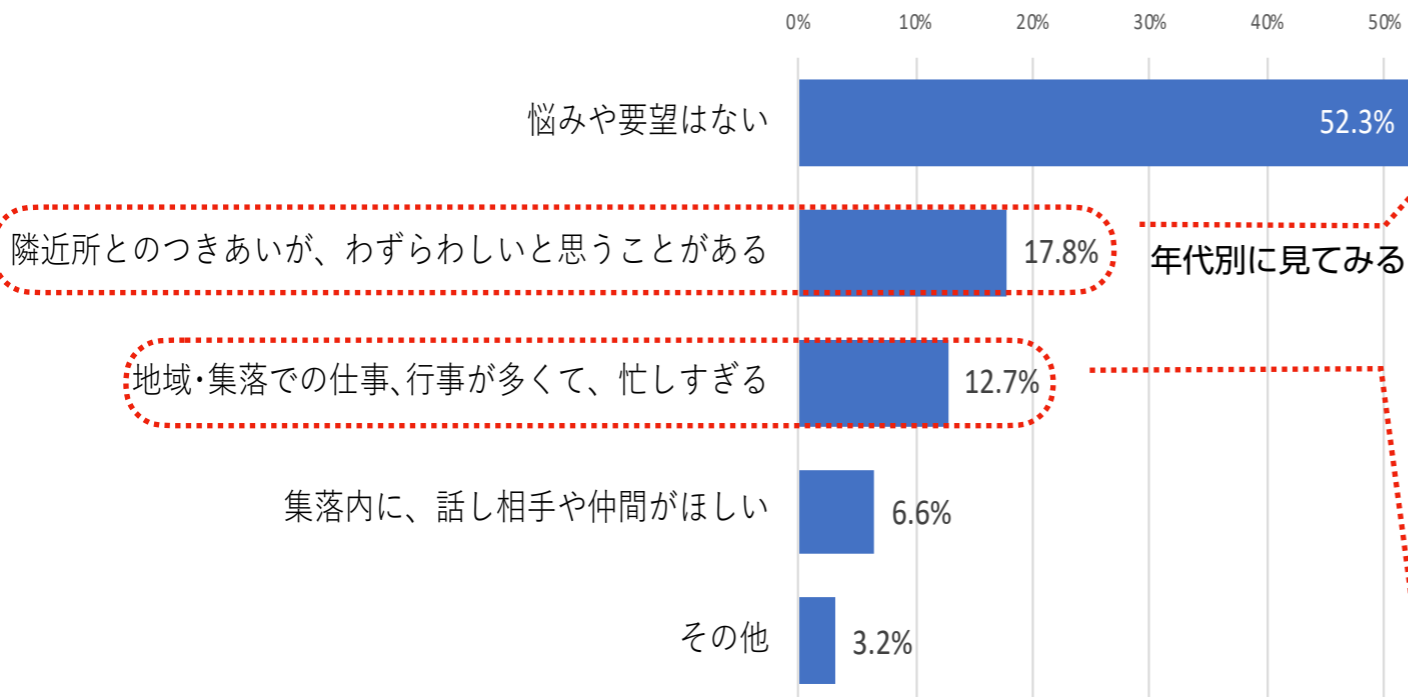
日曜日が毎週休み **6割前後**

この世代の参加を求めるのであれば
曜日設定の配慮が不可欠！

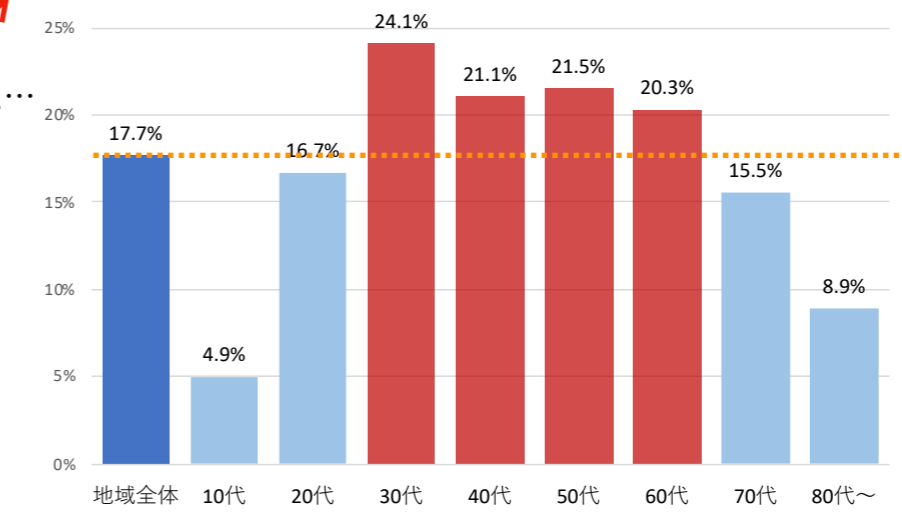
近所づきあいでの悩み

村上市・神納東地域 (2023)

※回答総数に対する回答割合（割合が高いほど、多くの方が○を付けている）で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。



隣近所とのつきあいが、わずらわしいと思うことがある

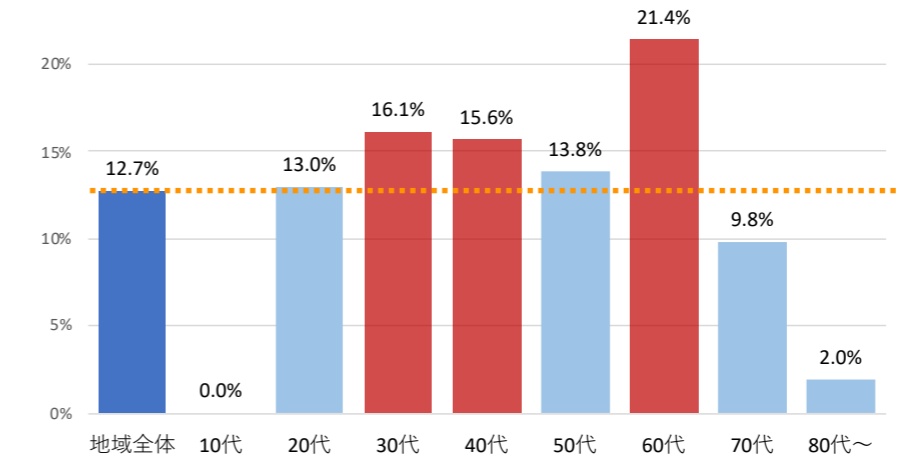


30～60代は地域平均よりも高い

地域全体では半数以上が「悩みなし」

昔ながらの近所づきあいのやり方が、中堅世代の価値観に合わない部分が出てきている!?

地域・集落での仕事、行事が多くて、忙しすぎる



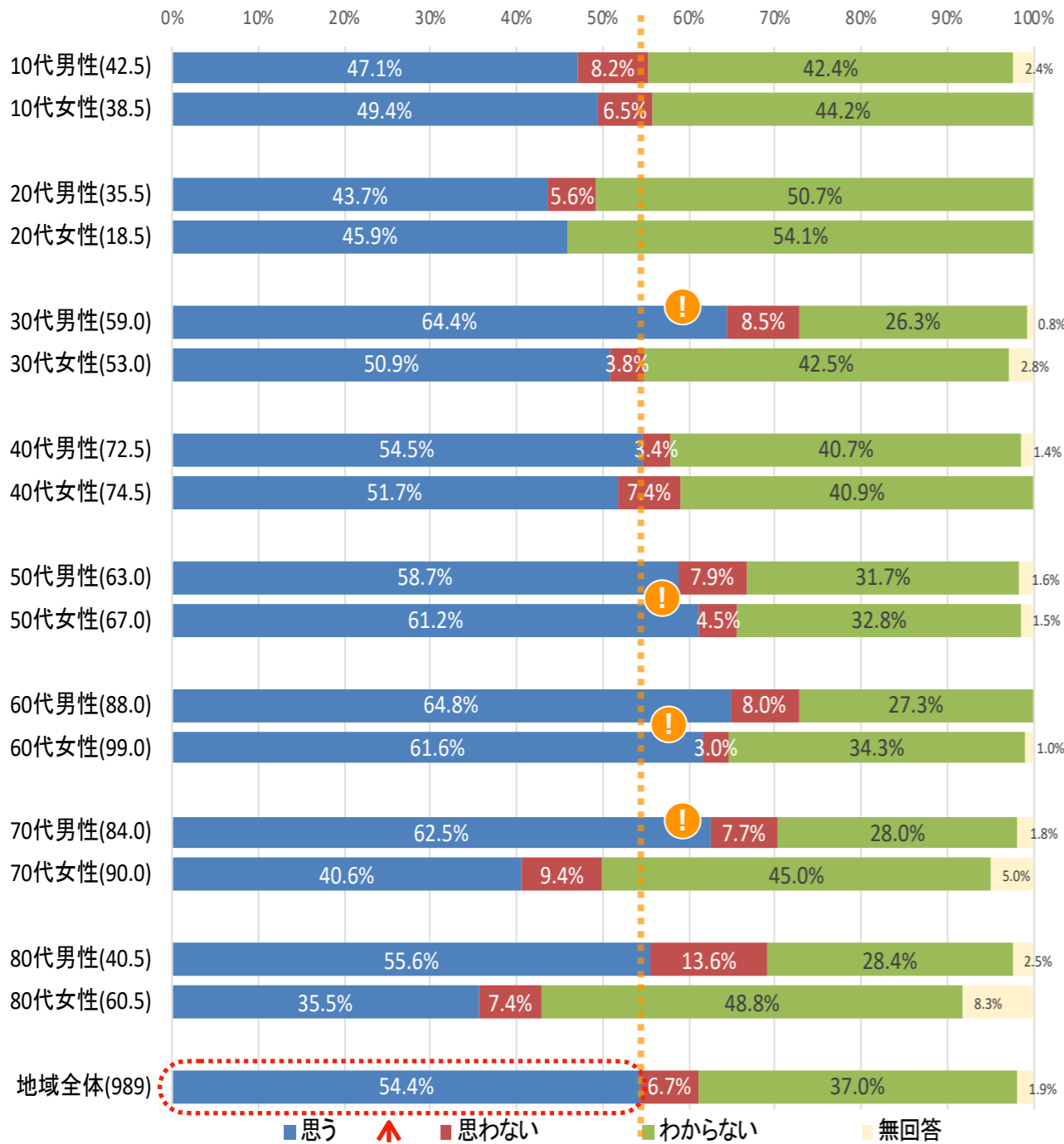
60代及び30～40代は地域平均よりも高い

人口減少がさらに進展する将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

地域活動に参加している割合が最も高い60代が、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

定住受入の必要性

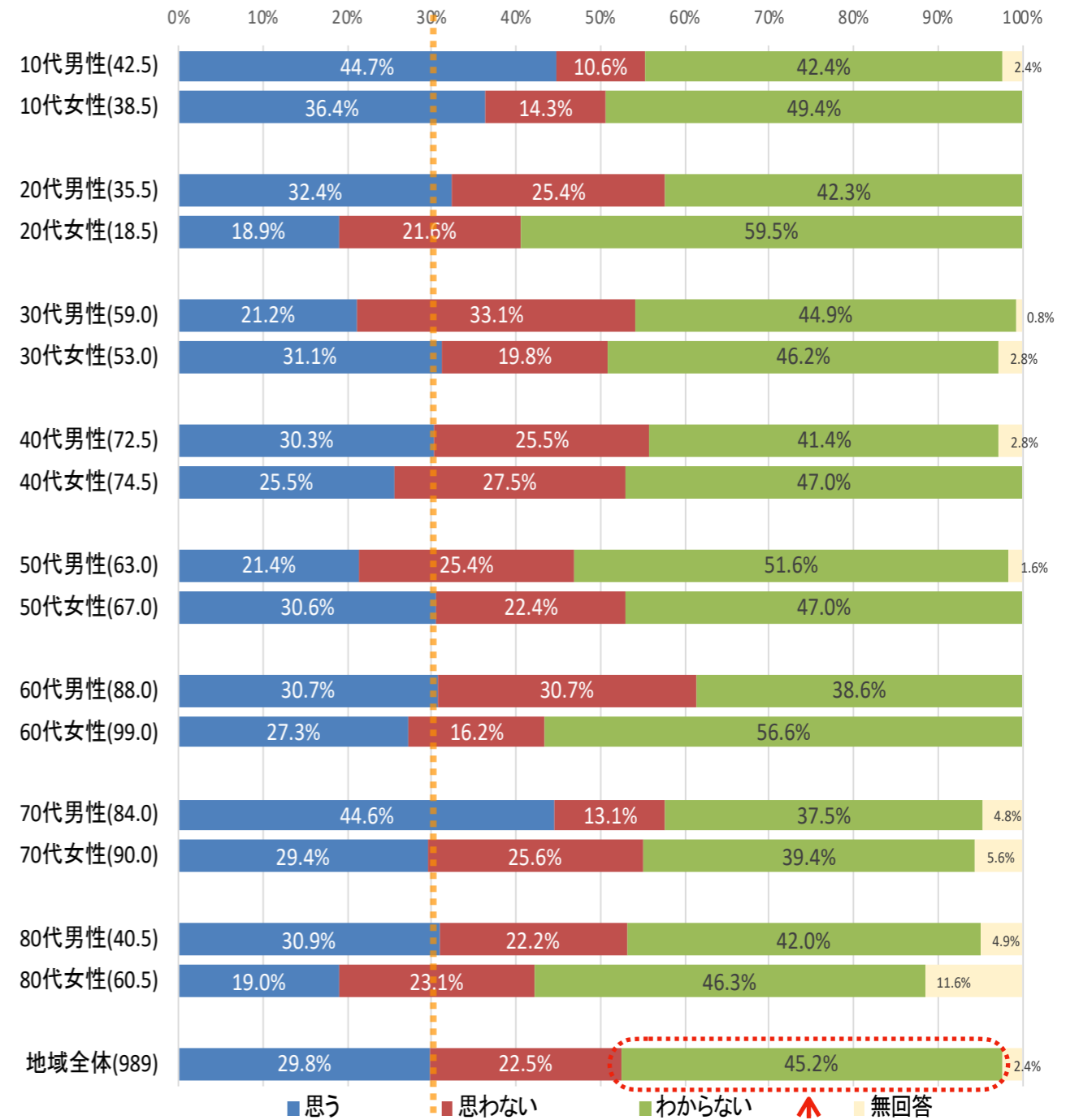
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



地域全体では5割以上が「必要」

50～60代および30・70代男性は「必要」が6割以上

他地域との交流の必要性



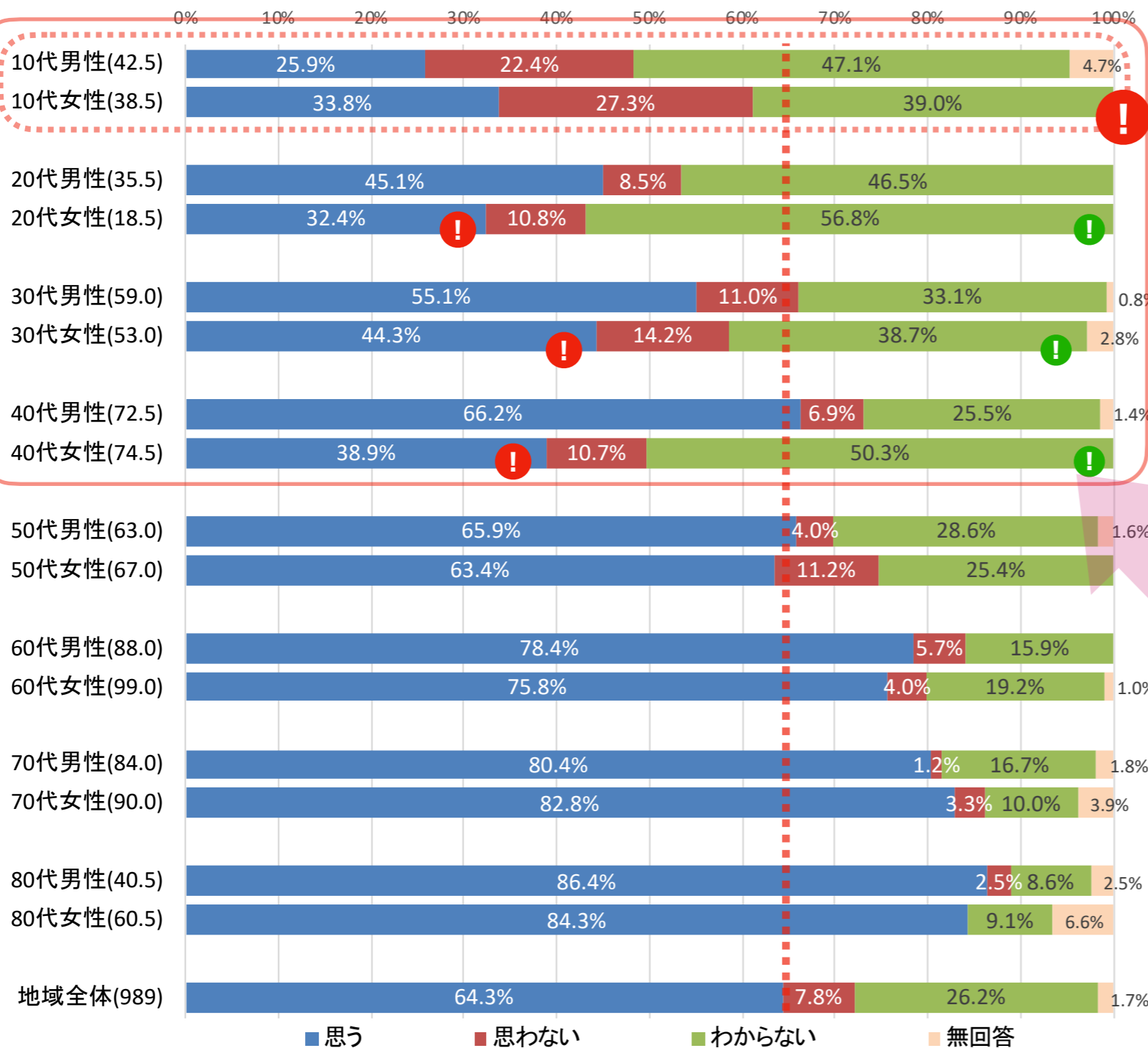
地域全体では半数近くが「わからない」

どの年代も賛否が半々もしくは男女で異なっている状況

この地域に住み続けたいと思うか？

村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

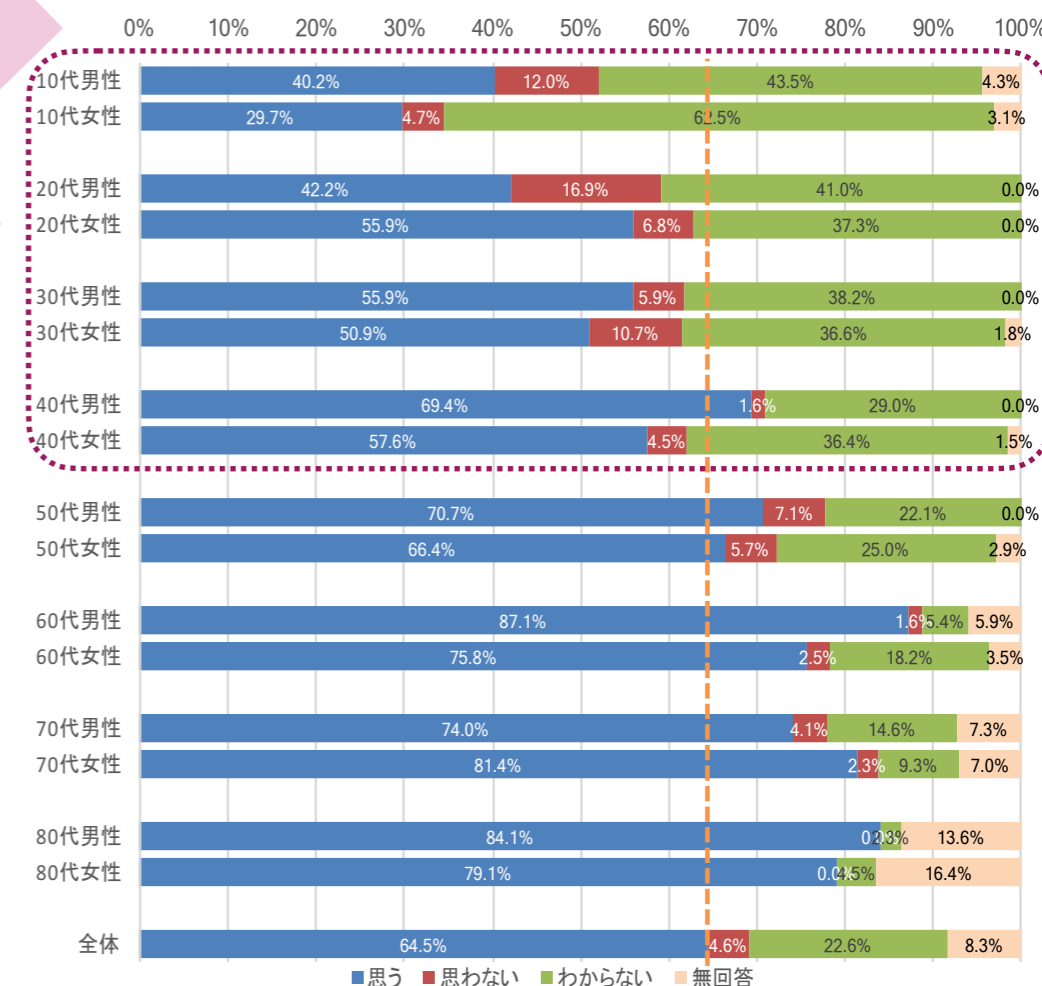


10代は「住み続けたいと思わない」が2割以上（全世代で最多）

20～40代女性の定住意向は3～4割

ただし「わからない」も4～5割（これからの取り組み次第）

H29年度調査時の定住意向

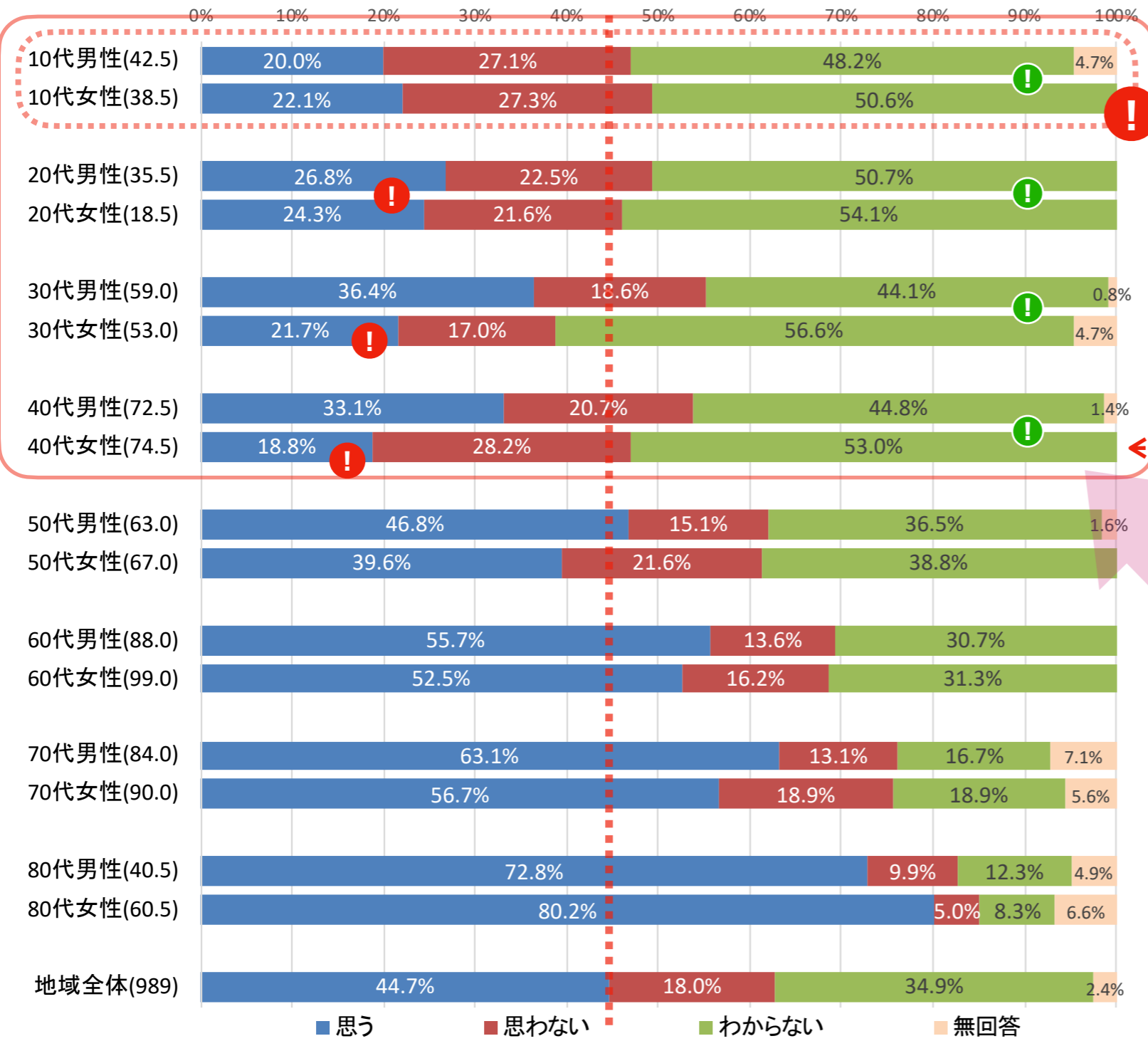


地域全体では「住み続けたいと思う」は6割以上

【注意！】 前回調査（H29）に比べ、10代男性と20～40代女性の定住意向が大きく低下している！

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ 村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

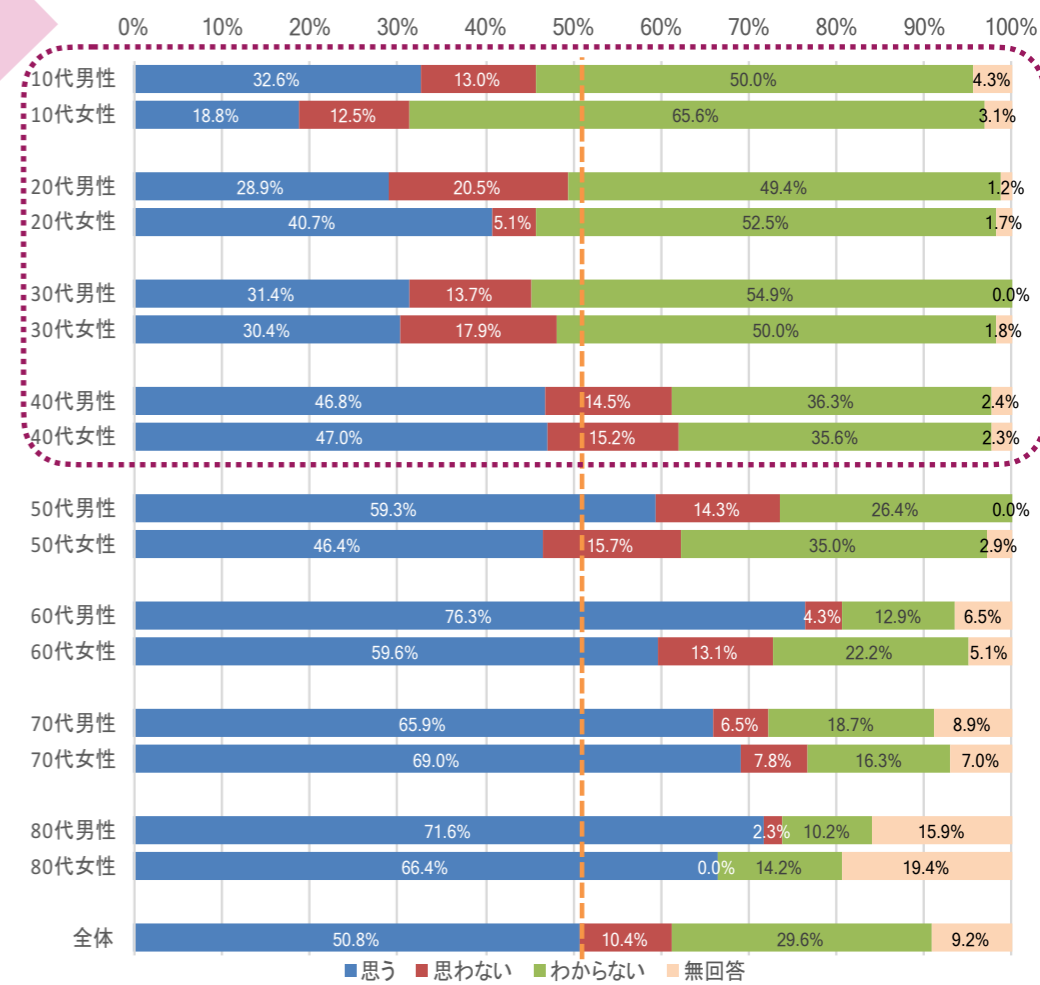


10代と40代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い

10代と20~40代女性は「住み続けてほしい」が2割前後

ただし「わからない」が約半数（これからの取り組み次第）

H29年度調査時の子どもへの定住希望



地域全体では「住み続けてほしい」が4割以上

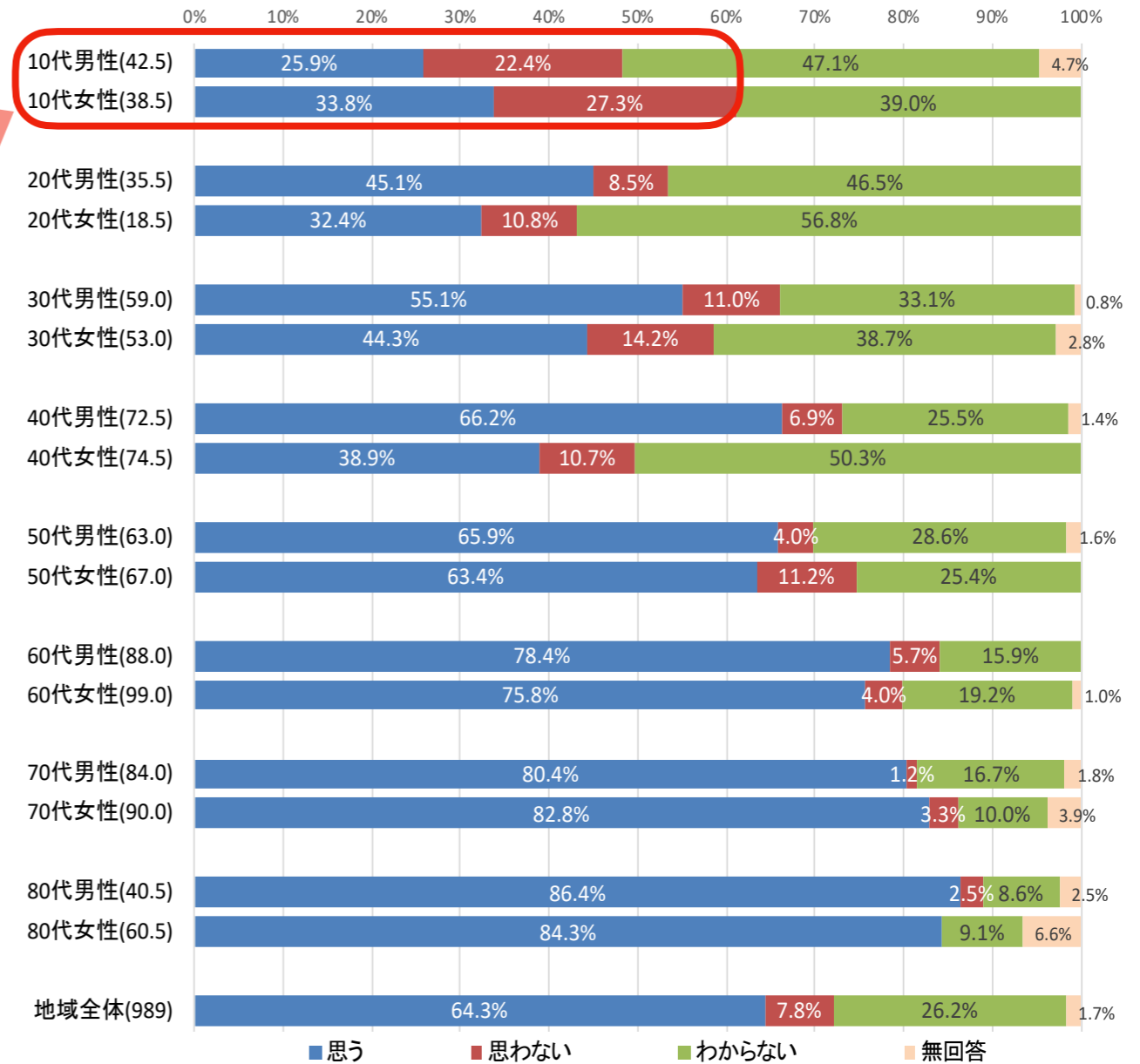
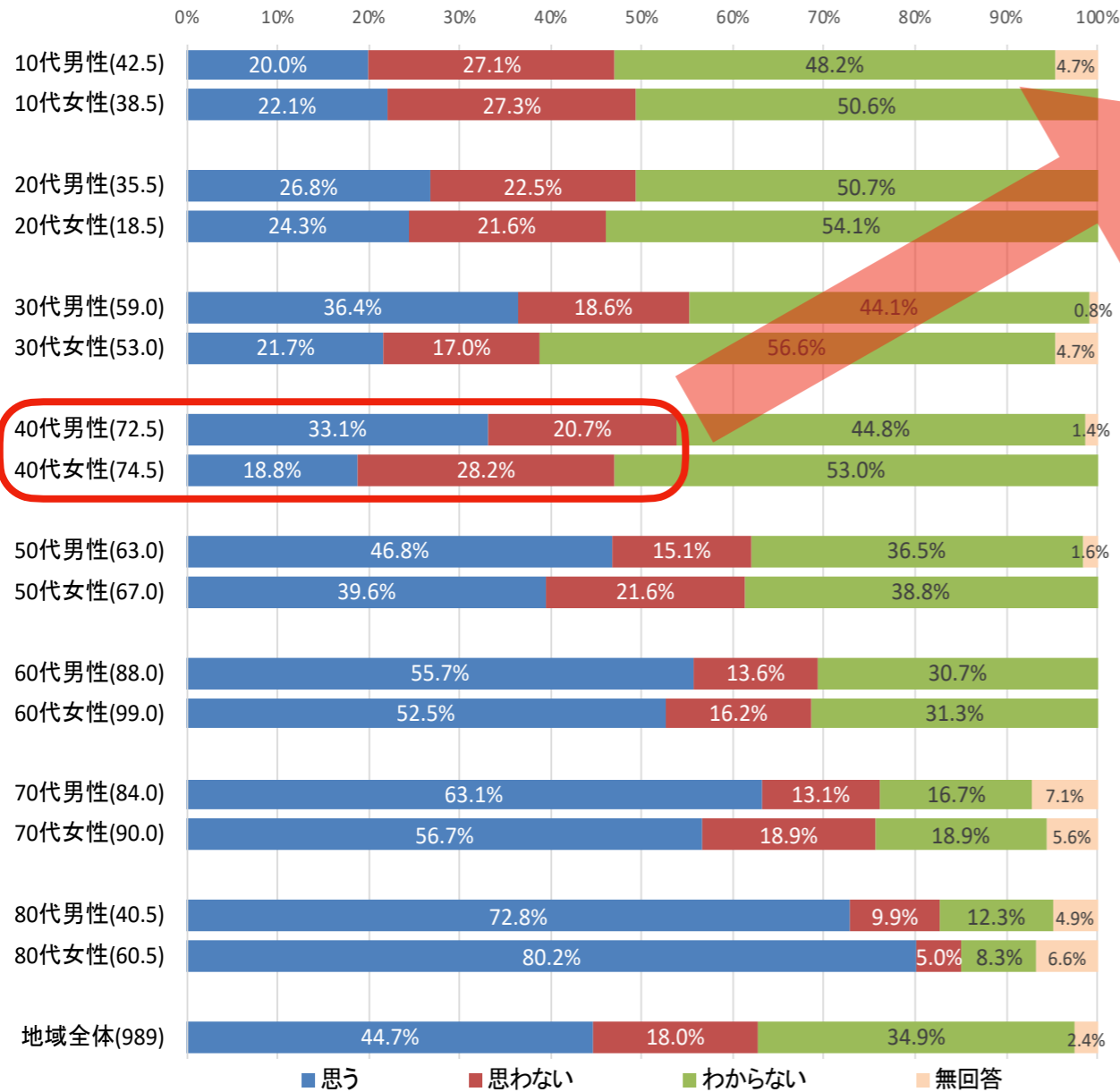
【注意！】 前回調査（H29）に比べ、10代男性・20~30代女性・40代の子どもへの定住希望が大きく低下している！

子育て中の親世代（40代）が「子どもに
住み続けてほしいと思う」の割合が低い

子ども世代（10代）の定住意向割合が地
域全体の半分以下

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？

この地域に住み続けたいと思うか？

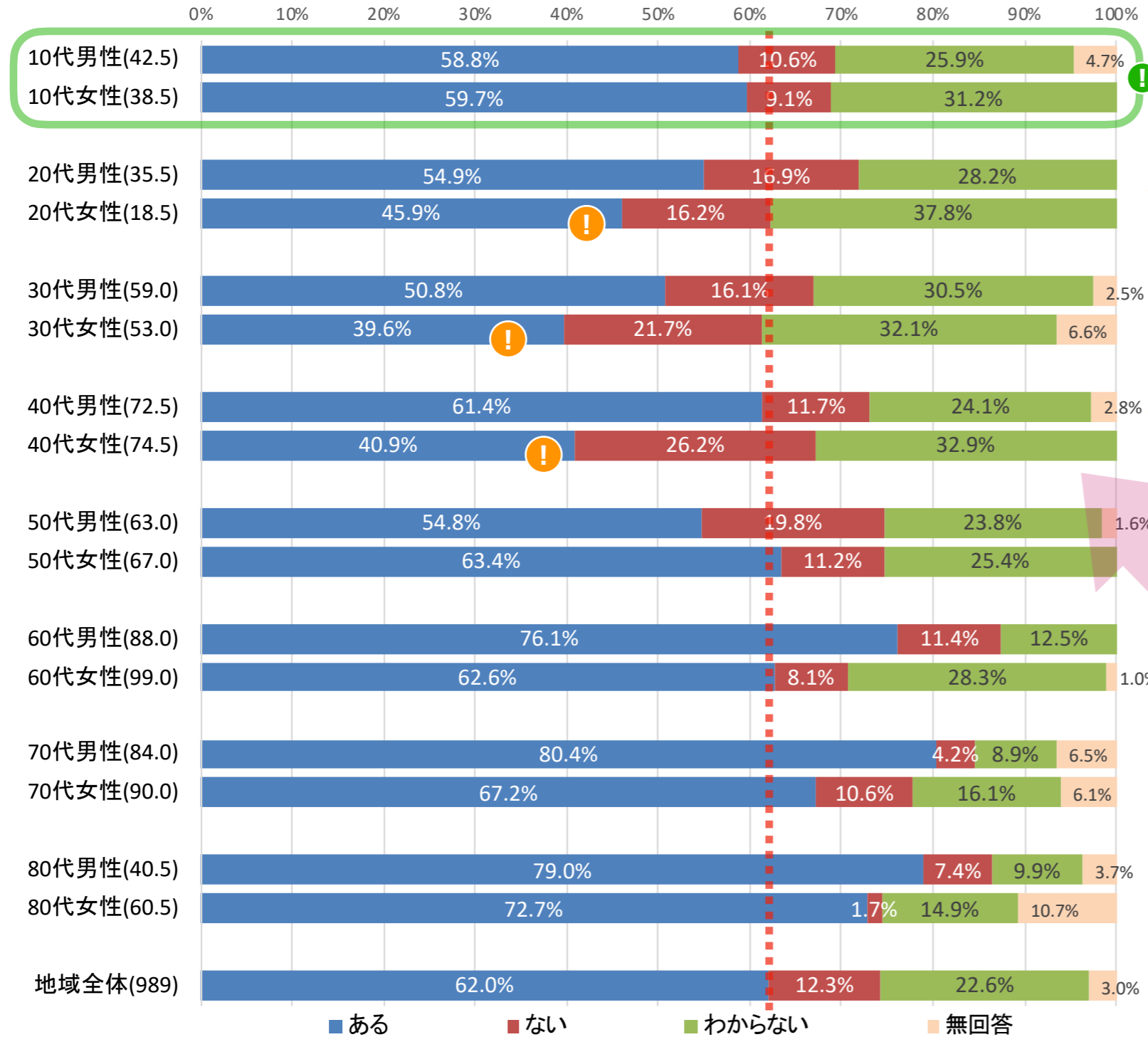


親世代の意向が、子ども世代の意向に影響していないか?!

地域への愛着の有無

村上市・神納東地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))

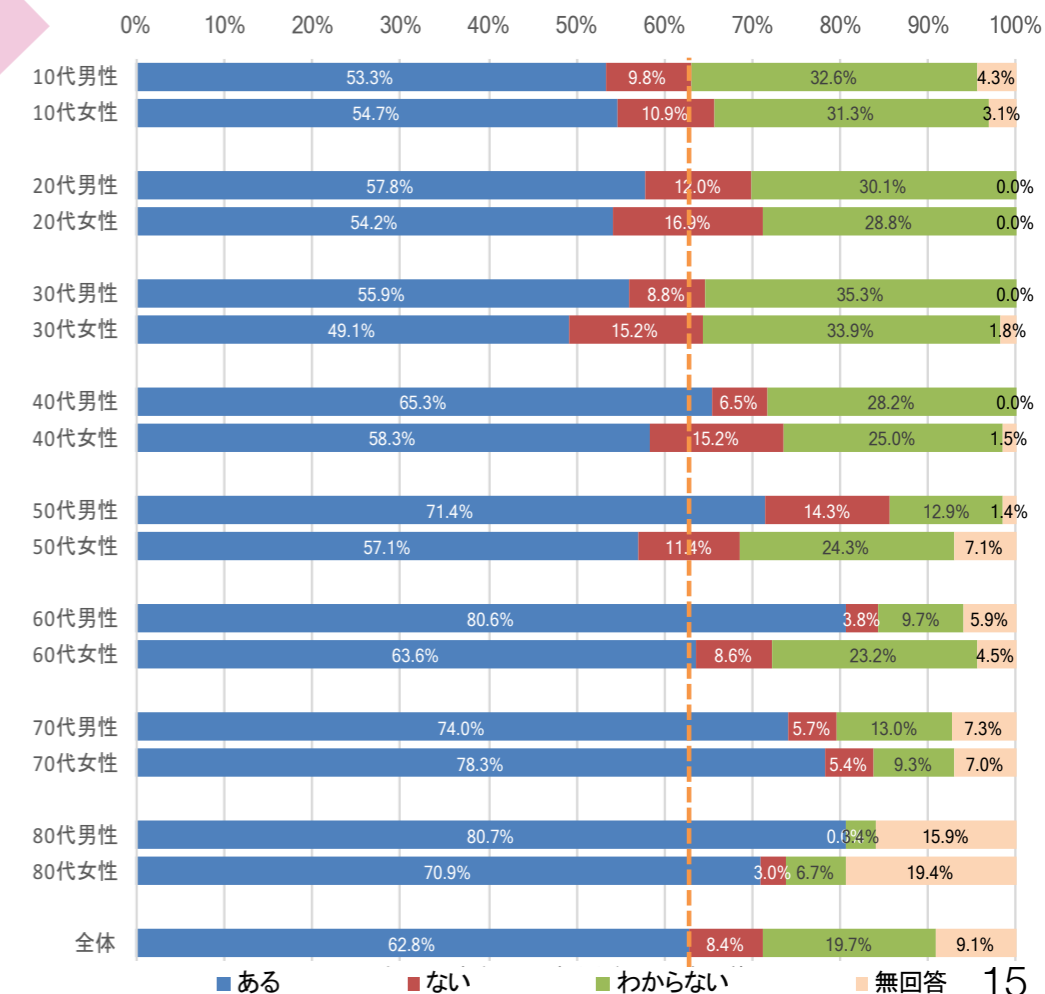


10代の愛着度は地域全体とほぼ同じ
※前回調査よりも若干高い

20~40代女性の愛着度は4割前後
男性の愛着度も5~6割

愛着と定住意向が繋がっていないのは…
将来への希望・安心感が足りていない!?
(不安の方が大きい)

H29年度調査時の地域への愛着



地域全体では「愛着がある」が6割以上

【注意！】 前回調査 (H29) に比べ、20~40代女性の地域への愛着度が低下している！

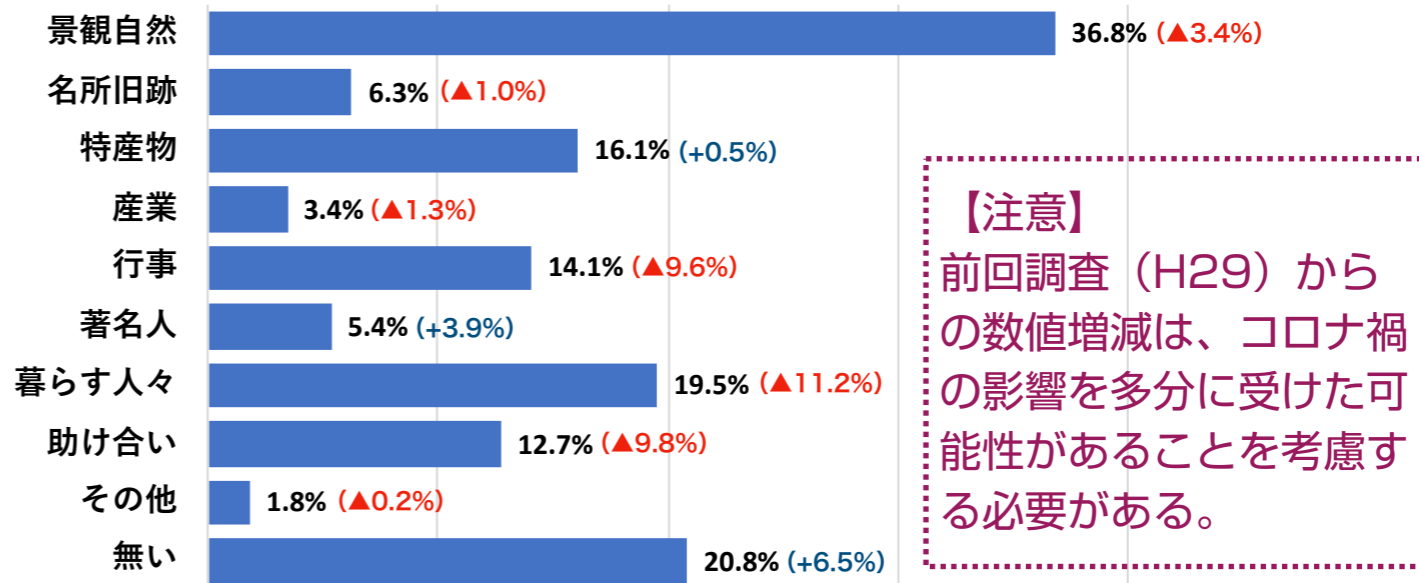
誇りに思う地域資源は何か

村上市・神納東地域（2023）

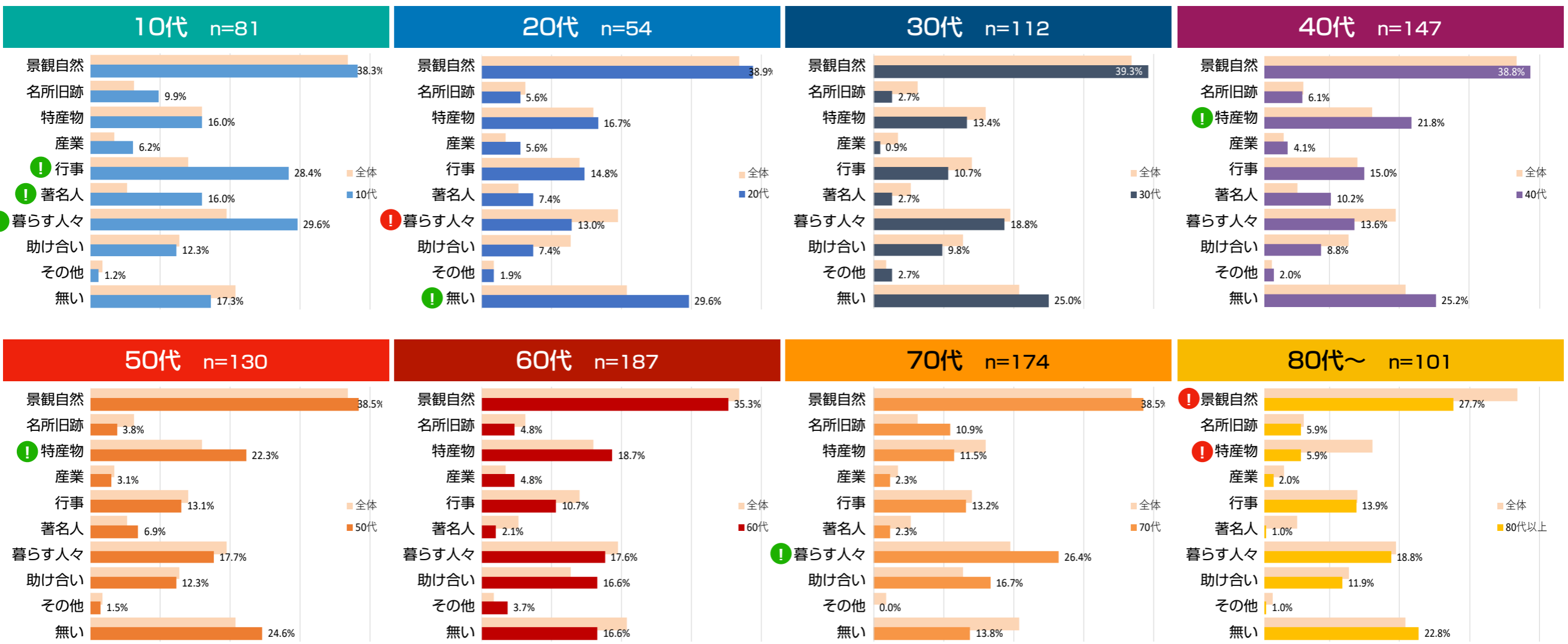
地域全体（複数回答） 括弧内は前回調査（H29）からの増減

【誇りに思う地域資源のトップ5】

- ① 景観・自然環境（36.8%）（▲3.4%）
- ② 暮らす人々（19.5%）（▲11.2%）
- ③ 特産物（16.1%）（+0.5%）
- ④ 行事（14.1%）（▲9.6%）
- ⑤ 助け合いなどの社会関係（12.7%）（▲9.8%）



【注意】
 前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。



! 地域平均よりも5%以上高い項目

! 地域平均よりも5%以上低い項目

日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

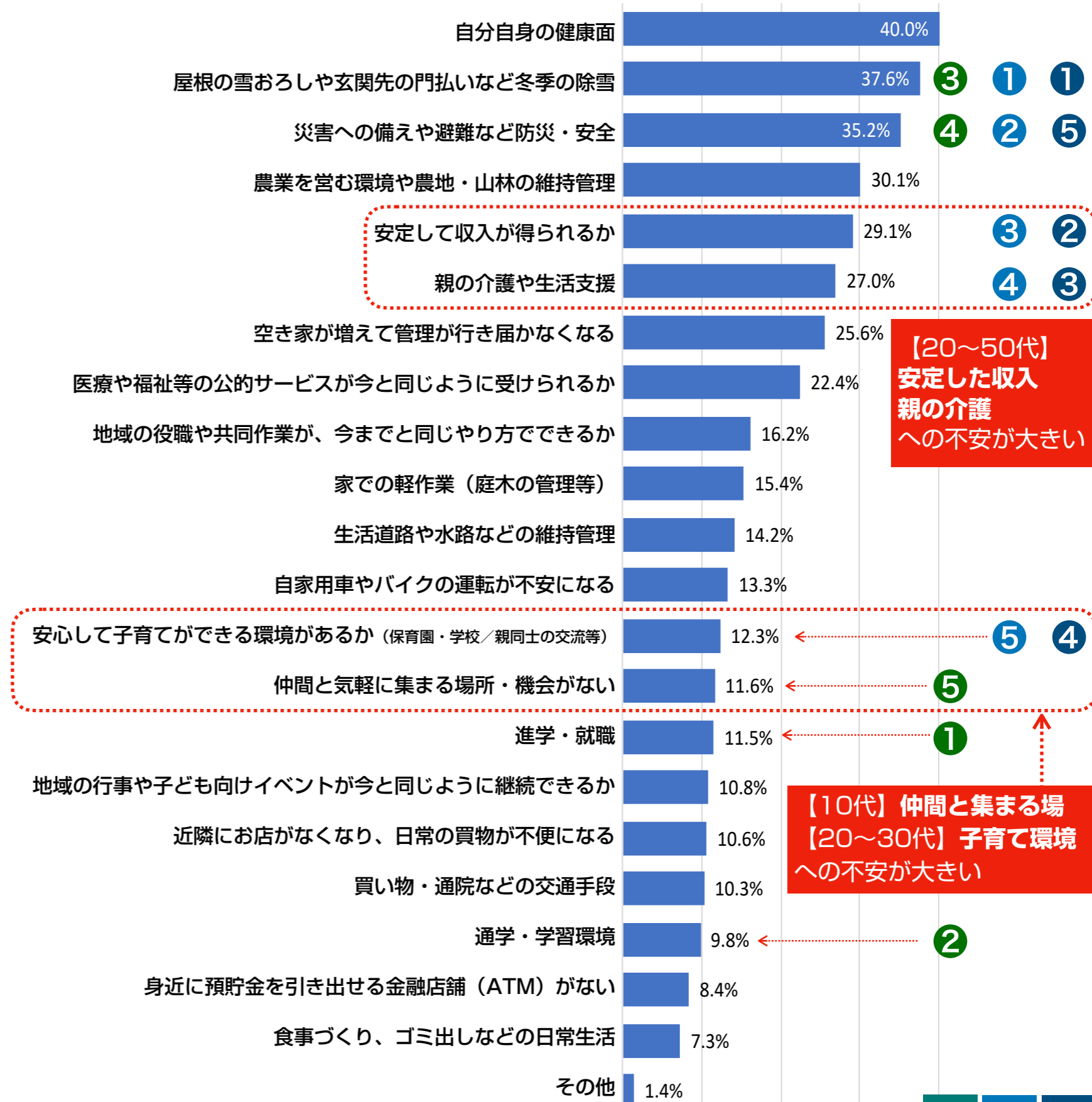
地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

10代		
1	進学・就職に関すること	28.4%
2	通学・学習環境のこと	24.7%
3	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	23.5%
4	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	21.0%
5	仲間と気軽に集まる場所・機会がないこと	19.8%

20代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	35.2%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	29.6%
3	安定して収入が得られるか	27.8%
4	親の介護や生活支援のこと	25.9%
5	安心して子育てができる環境があるか（保育園・学校／親同士の交流等）	20.4%

30代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	45.5%
2	安定して収入が得られるか	42.0%
3	親の介護や生活支援のこと	38.4%
4	安心して子育てができる環境があるか（保育園・学校／親同士の交流等）	35.7%
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	33.0%



日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

地域全体での集計結果

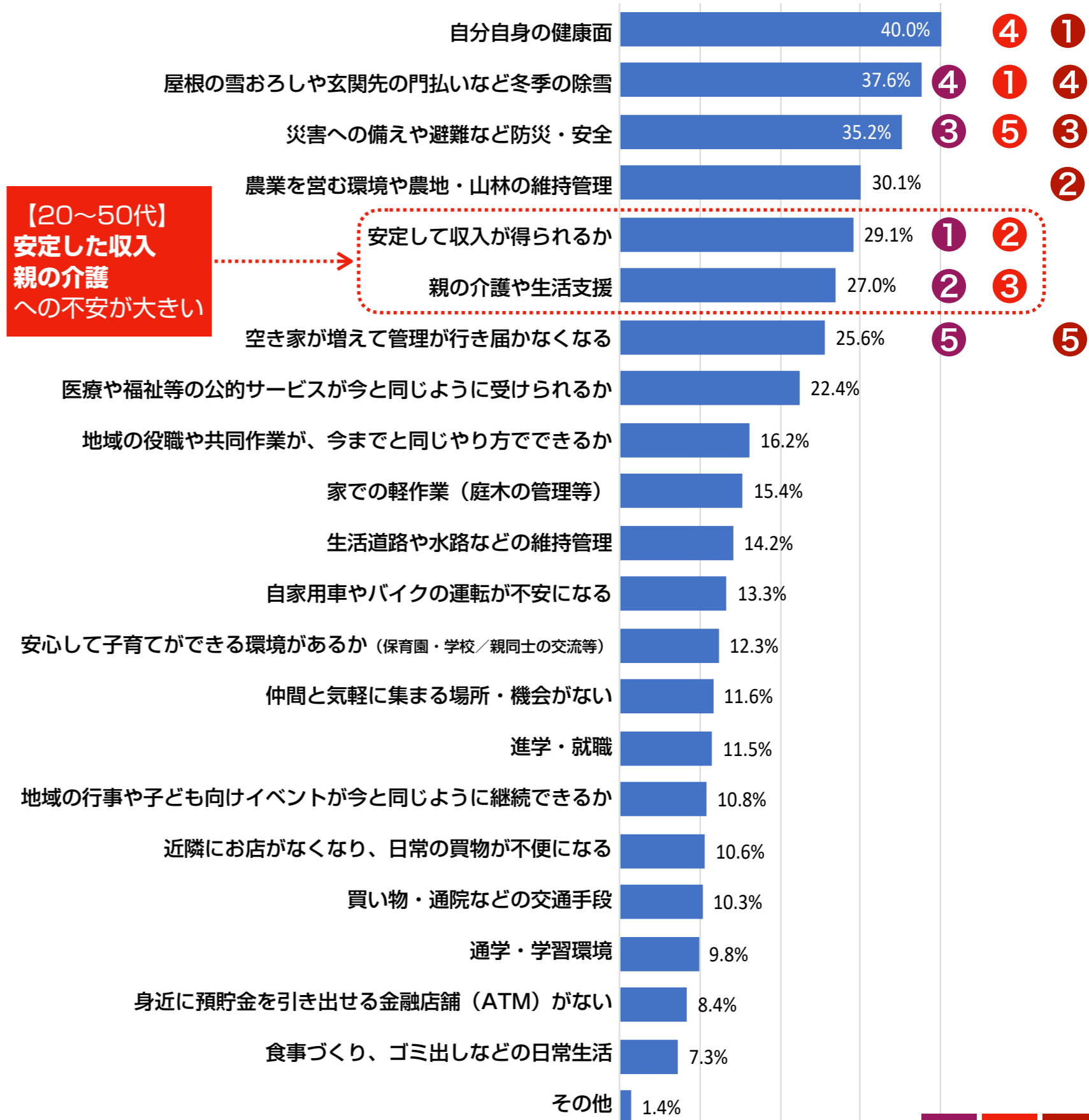
年代によって心配ごとは違う

40代		
1	安定して収入が得られるか	49.0%
2	親の介護や生活支援のこと	43.5%
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	42.9%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	40.1%
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	30.6%

50代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	42.3%
2	安定して収入が得られるか	40.8%
3	親の介護や生活支援のこと 自分自身の健康面のこと	36.9%
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	33.8%

60代		
1	自分自身の健康面のこと	48.1%
2	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	46.0%
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	42.8%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	42.2%
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	31.6%

**【20~50代】
安定した収入
親の介護
への不安が大きい**



日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

70代		
1	自分自身の健康面のこと	59.8%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	33.9%
3	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	33.3%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	29.9%
	医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか	

80代		
1	自分自身の健康面のこと	66.3%
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	35.6%
3	医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか	31.7%
4	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	30.7%
5	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	29.7%

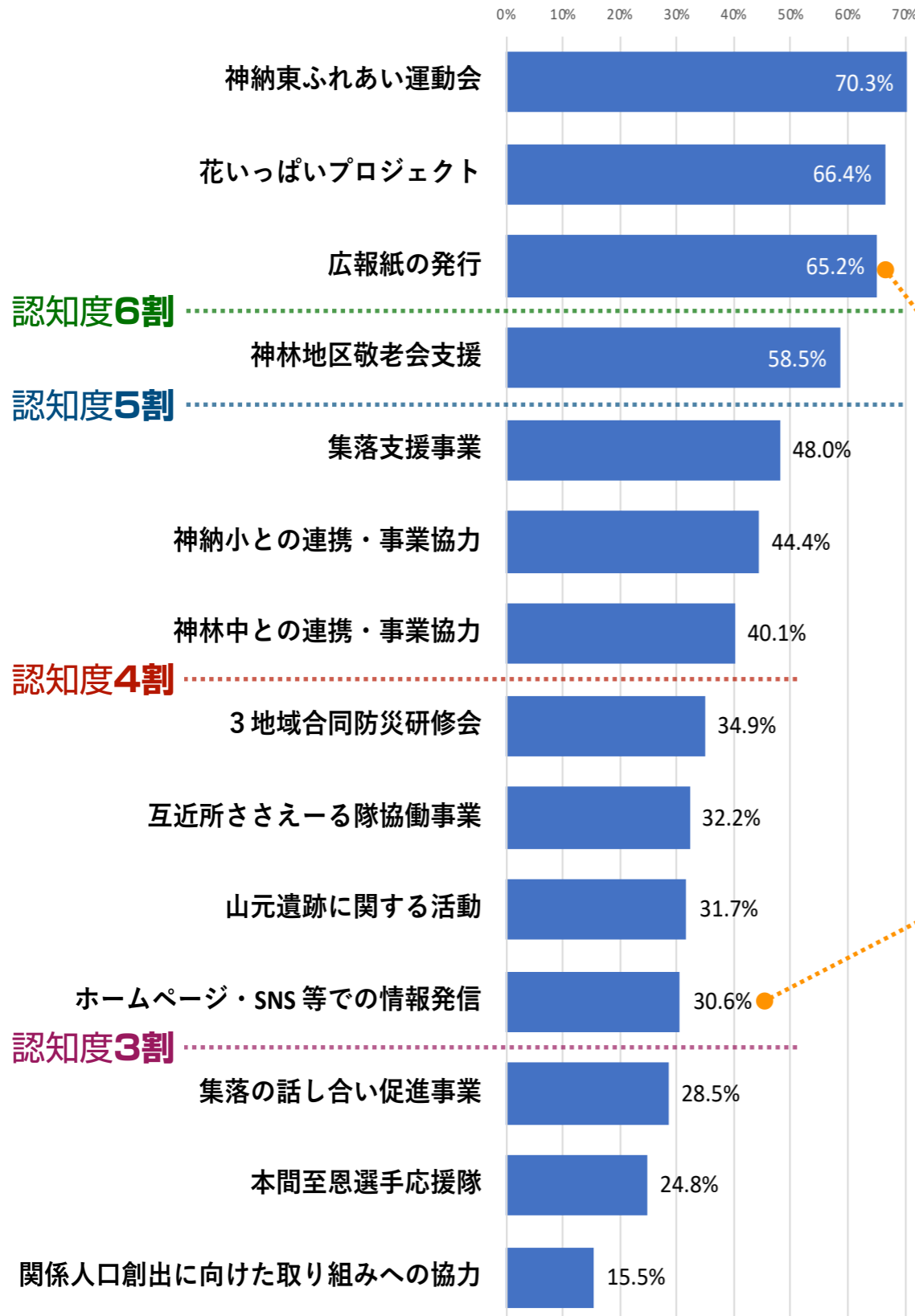


【70～80代】
医療・福祉
への不安が大きい

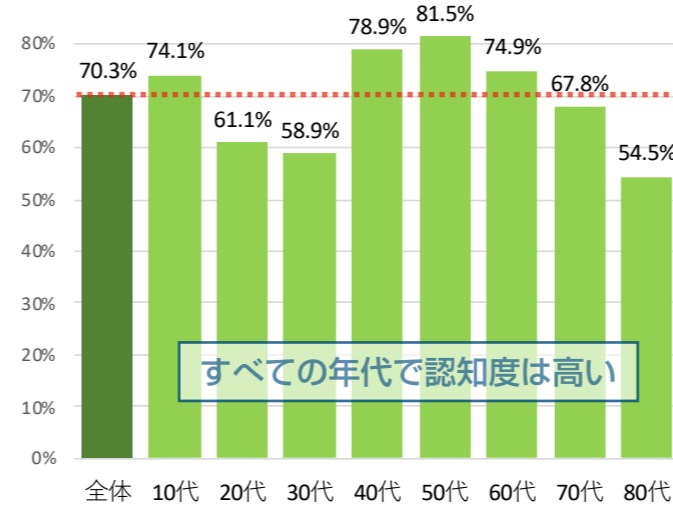
まちづくり協議会事業の認知度

村上市・神納東地域（2023）

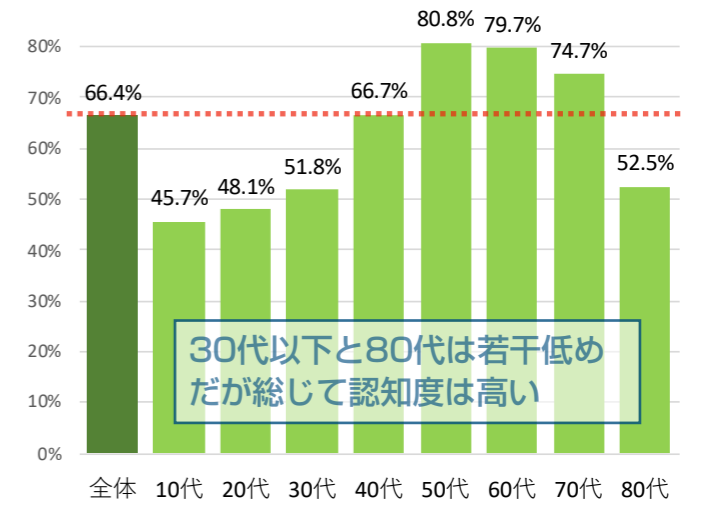
地域全体での集計結果



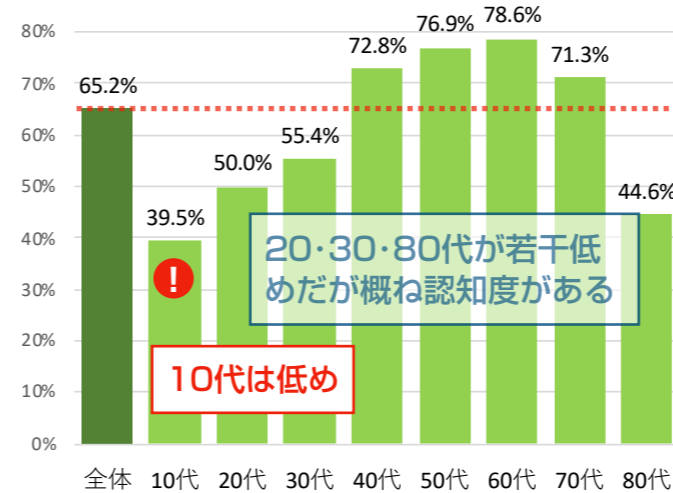
神納東ふれあい運動会



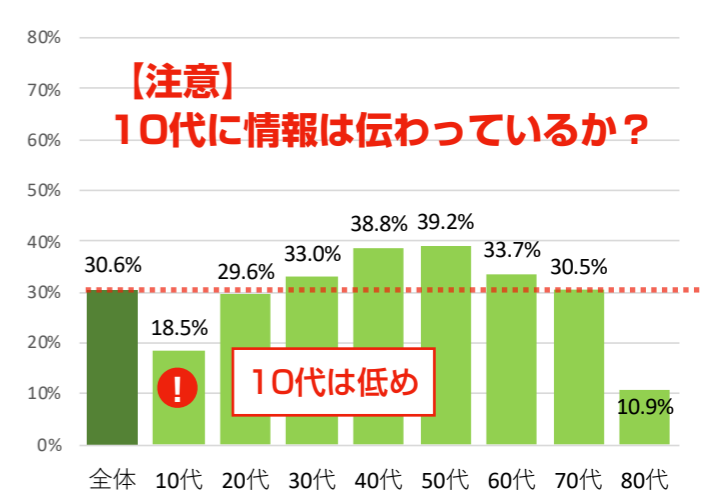
花いっぱいプロジェクト



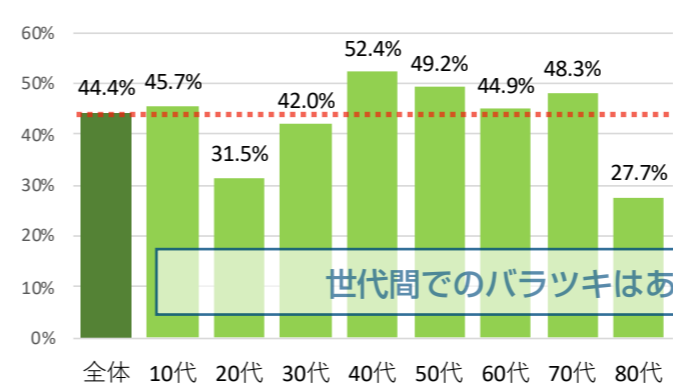
広報紙の発行



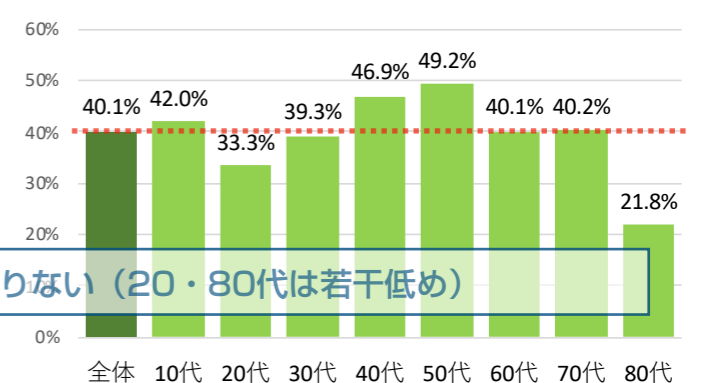
ホームページ・SNS等での情報発信



神納小との連携・事業協力



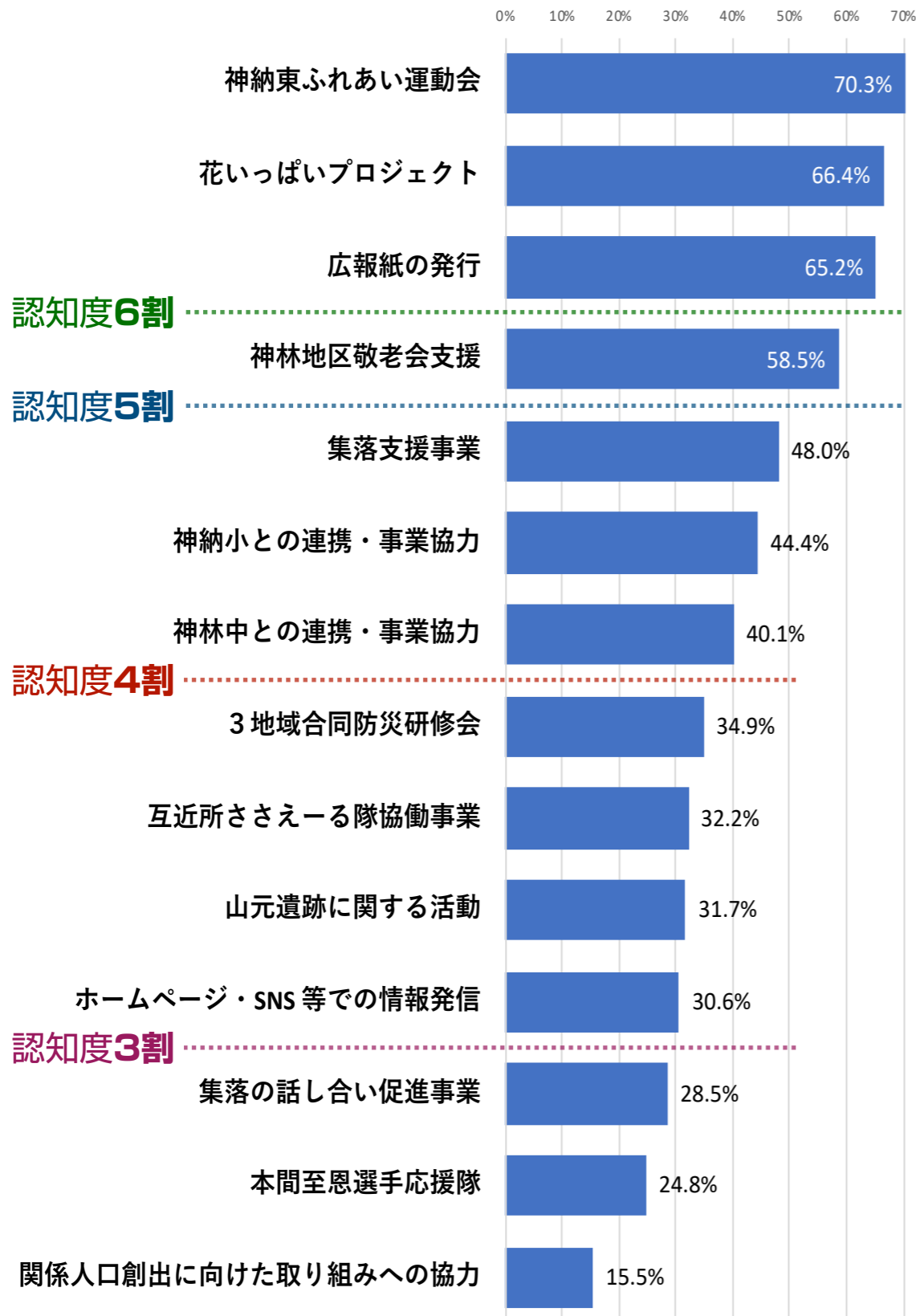
神林中との連携・事業協力



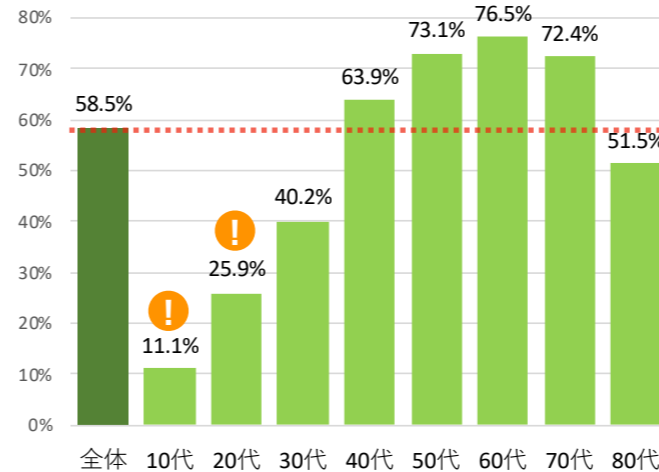
まちづくり協議会事業の認知度

村上市・神納東地域（2023）

地域全体での集計結果

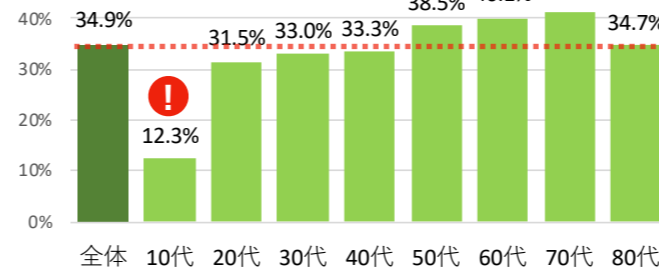


神林地区敬老会支援

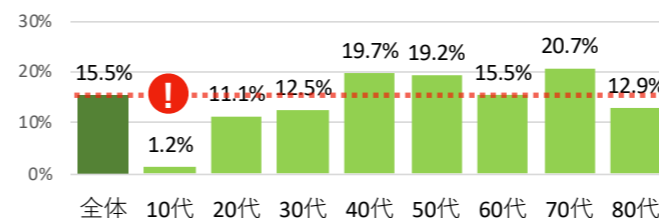


【注意】
10代は防災・交流への関心が他世代よりも高めだが、協議会の取り組みを知らない

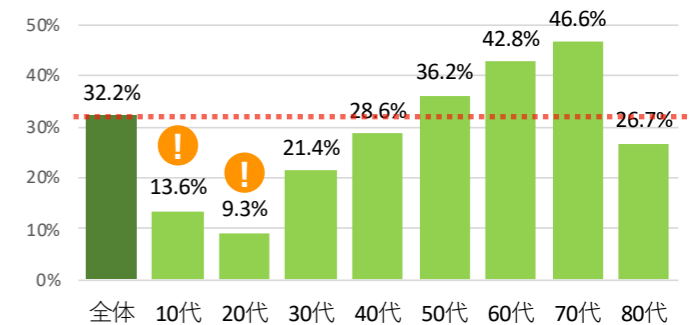
3地域合同防災研修会



関係人口創出に向けた取り組みへの協力

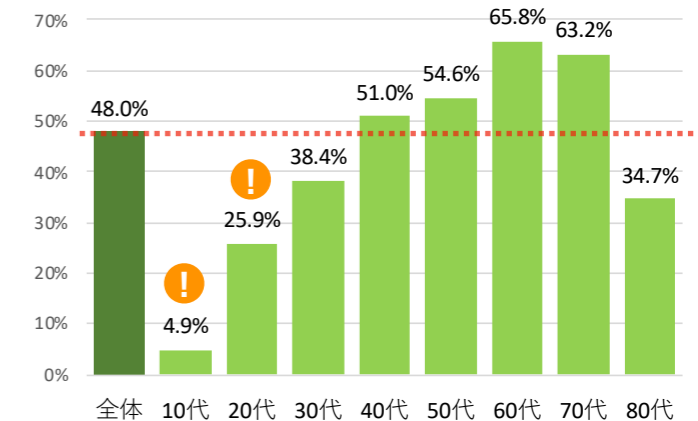


互近所ささえーる隊協働事業

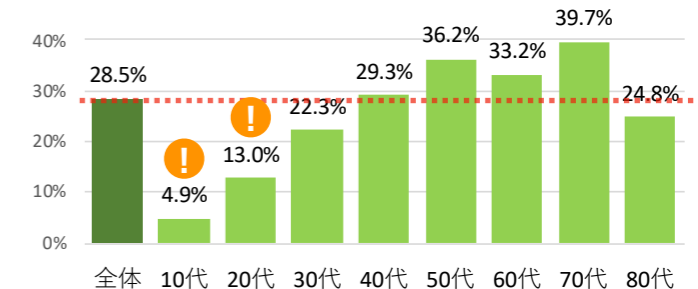


【注意】
集落活動や福祉関連の取り組み内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？

集落支援事業



集落の話し合い促進事業



※回答総数に対しての回答割合（割合が高いほど、多くの人が○を付けている）で集計。

取り組みの重要度

村上市・神納東地域（2023）

【注意】 事業の認知度が重要度の回答に大きく影響している可能性があるため、「重要度の高さ＝事業の優先度」ではない。

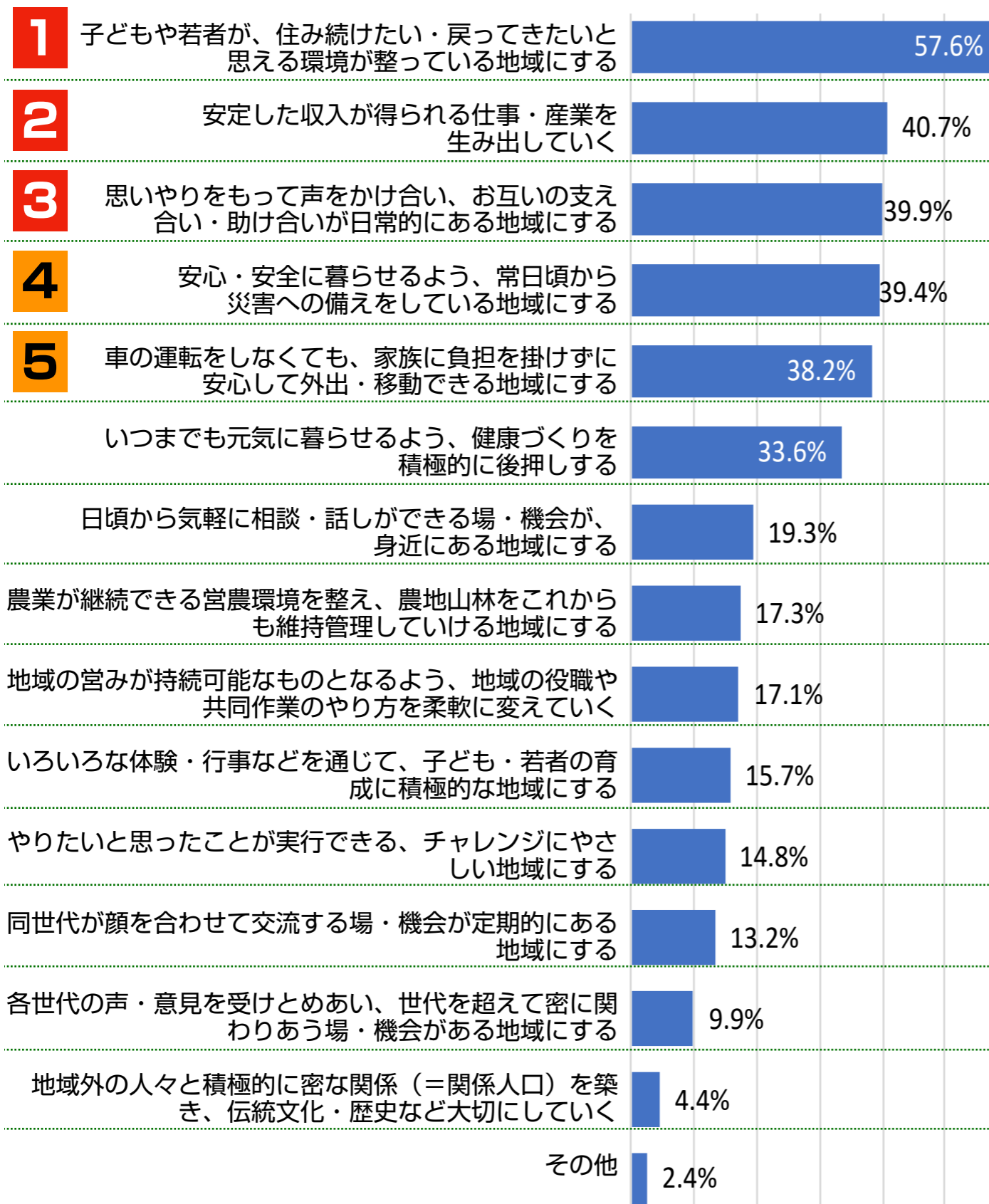
全体			10-20代		30-40代		50-60代		70代-	
1	集落支援事業	63.5%	神納小との連携・事業協力	57.8%	集落支援事業	62.9%	集落支援事業	74.8%	集落支援事業	57.8%
2	3地域合同防災研修会	58.6%	神林中との連携・事業協力	57.0%	3地域合同防災研修会	59.1%	3地域合同防災研修会	67.8%	花いっぱいプロジェクト	54.5%
3	花いっぱいプロジェクト	55.0%	3地域合同防災研修会	54.8%	神納小との連携・事業協力	54.8%	花いっぱいプロジェクト	63.7%	広報紙の発行	51.6%
4	広報紙の発行	54.6%	神納東ふれあい運動会	53.3%	神林中との連携・事業協力	54.1%	神林地区敬老会支援	61.8%	3地域合同防災研修会	49.8%
5	神林地区敬老会支援	52.9%	集落支援事業	50.4%	広報紙の発行	52.1%	広報紙の発行	61.5%	神林地区敬老会支援	49.8%
6	神納小との連携・事業協力	49.9%	花いっぱいプロジェクト	49.6%	ホームページ・SNS等での情報発信	52.1%	集落の話し合い促進事業	53.0%	集落の話し合い促進事業	46.5%
7	神林中との連携・事業協力	47.8%	広報紙の発行	49.6%	神林地区敬老会支援	51.4%	神納小との連携・事業協力	52.4%	神納東ふれあい運動会	46.5%
8	集落の話し合い促進事業	47.1%	ホームページ・SNS等での情報発信	48.9%	花いっぱいプロジェクト	47.9%	互近所ささえーる隊協働事業	50.5%	互近所ささえーる隊協働事業	39.3%
9	神納東ふれあい運動会	43.2%	集落の話し合い促進事業	43.0%	集落の話し合い促進事業	43.2%	神林中との連携・事業協力	49.8%	神納小との連携・事業協力	38.9%
10	ホームページ・SNS等での情報発信	42.9%	神林地区敬老会支援	42.2%	互近所ささえーる隊協働事業	39.8%	ホームページ・SNS等での情報発信	48.3%	神林中との連携・事業協力	35.3%
11	互近所ささえーる隊協働事業	42.3%	山元遺跡に関する活動	41.5%	神納東ふれあい運動会	39.4%	神納東ふれあい運動会	39.4%	山元遺跡に関する活動	29.1%
12	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	33.3%	本間至恩選手応援隊	36.3%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	34.4%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	38.5%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	26.2%
13	山元遺跡に関する活動	30.4%	互近所ささえーる隊協働事業	34.1%	本間至恩選手応援隊	29.7%	山元遺跡に関する活動	31.9%	ホームページ・SNS等での情報発信	25.5%
14	本間至恩選手応援隊	26.8%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	34.1%	山元遺跡に関する活動	24.7%	本間至恩選手応援隊	24.9%	本間至恩選手応援隊	21.8%

世代間で重要度にギャップがある事業	重要度が特に高め	神納小との連携・事業協力 神林中との連携・事業協力 神納東ふれあい運動会	神納小との連携・事業協力 神林中との連携・事業協力 HP・SNS等での情報発信		
	重要度がやや低め	神林地区敬老会支援	神納東ふれあい運動会	神納東ふれあい運動会	神納小との連携・事業協力 神林中との連携・事業協力 HP・SNS等での情報発信
		10~20代	30~40代	50~60代	70代~

これからの地域づくりで大切なこと

村上市・神納東地域（2023）

地域全体での集計結果



各世代共通

20～40・80代が重視

50～70代は重視している

運転が徐々に不安になっていく世代+送迎を担う世代が大切だと言っている

30代が重視

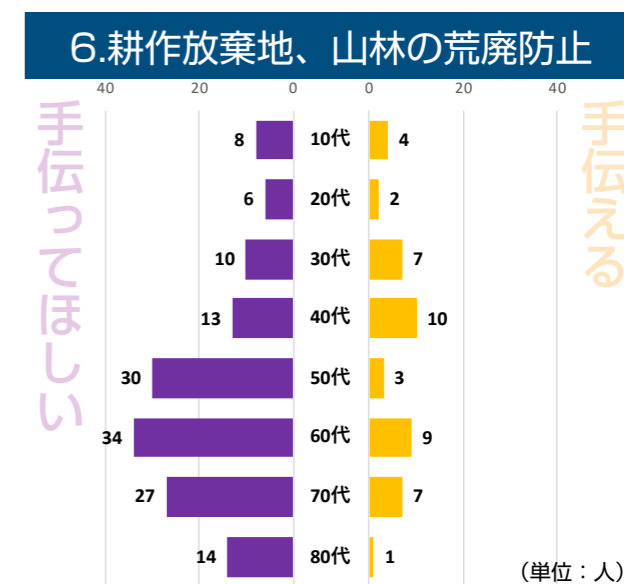
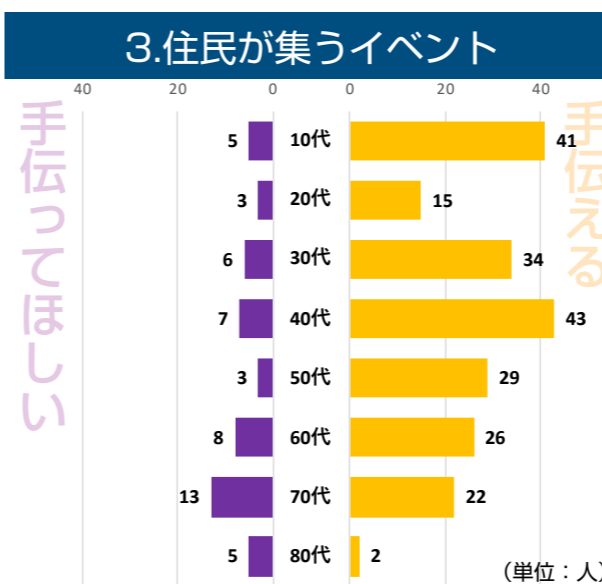
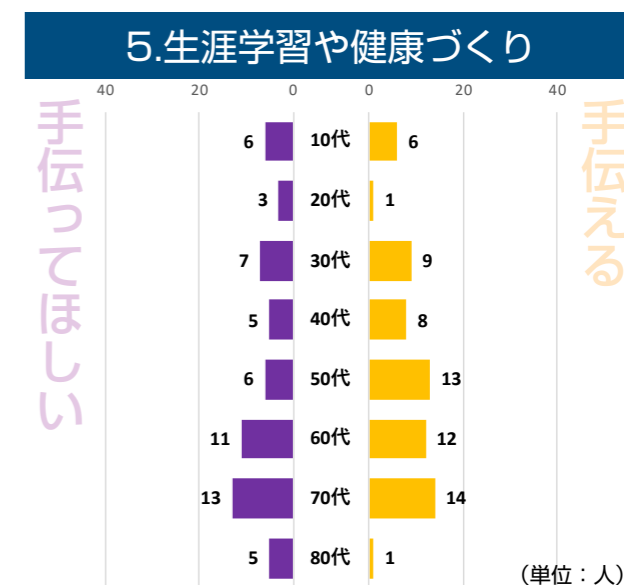
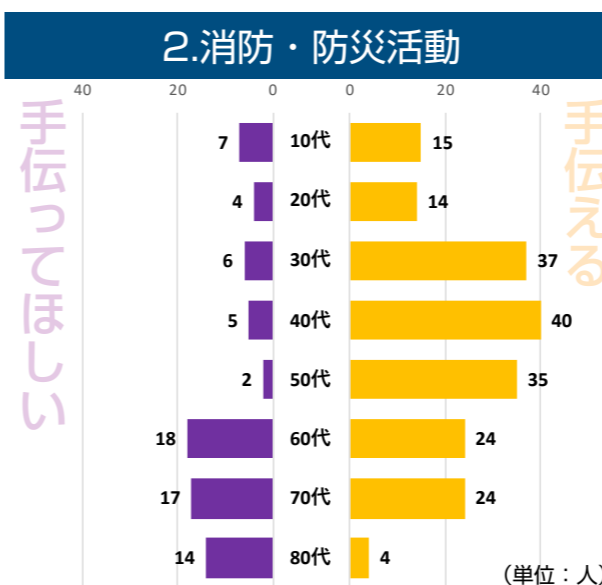
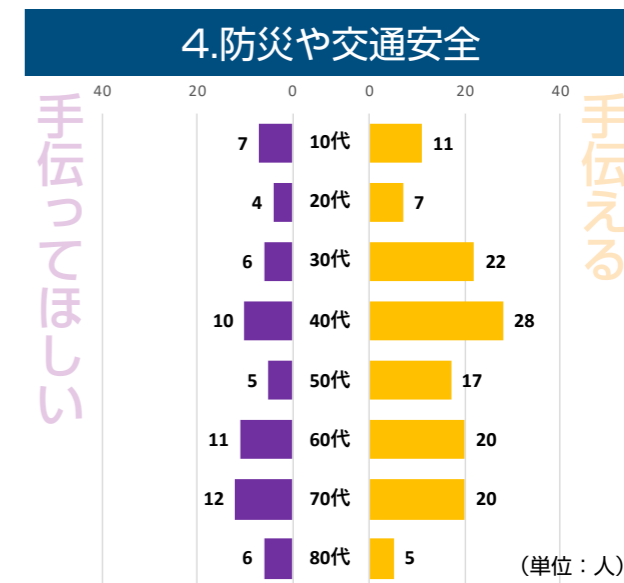
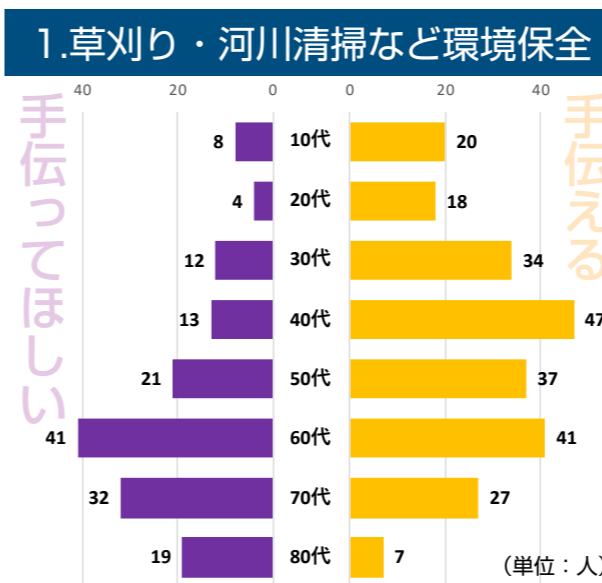
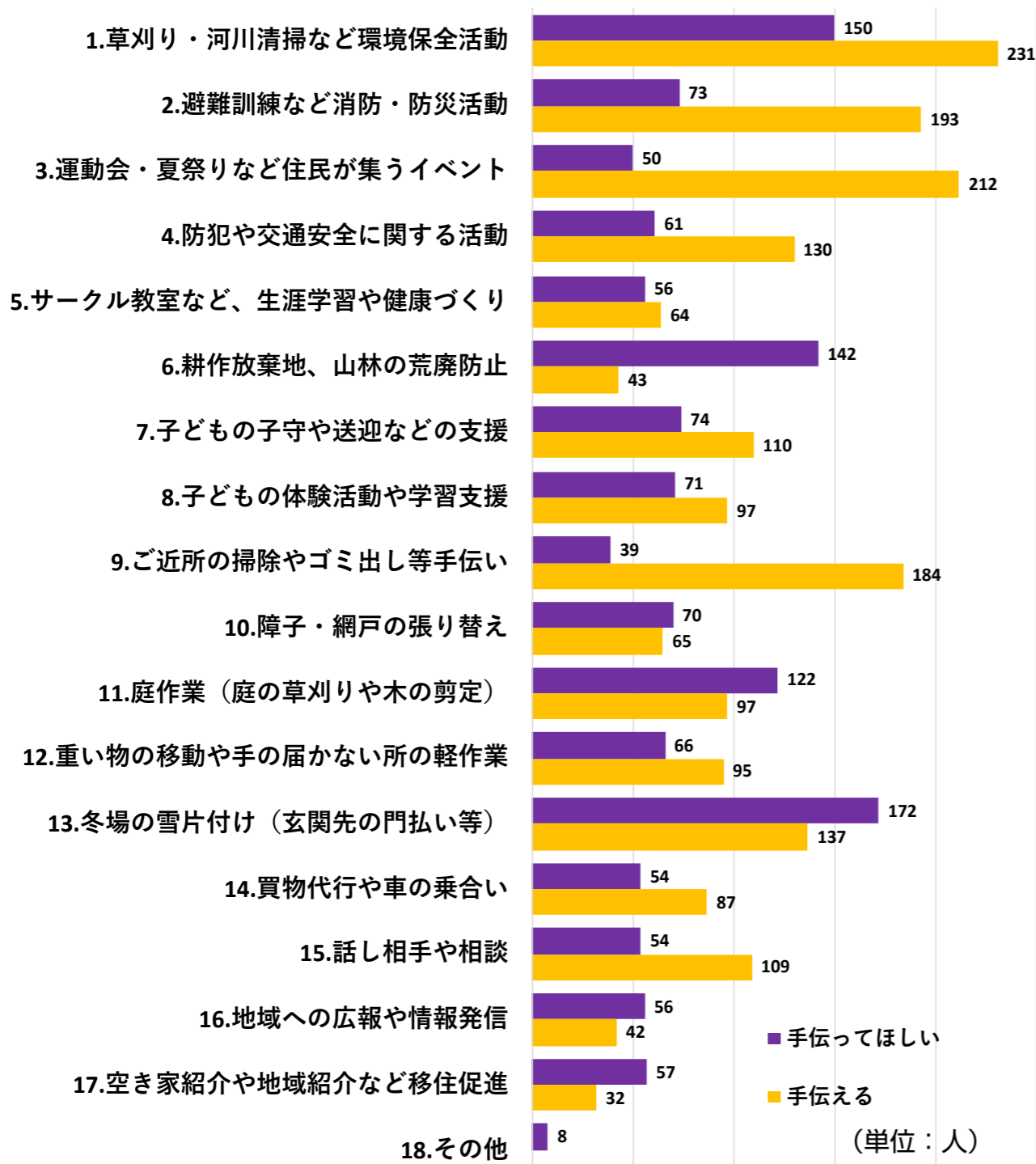
子育て世代・現役世代の切実な声！？

現役世代にとっては、将来への安心感のためにも切実!?

年代別の集計結果<各年代のトップ5>

手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神納東地域 (2023)



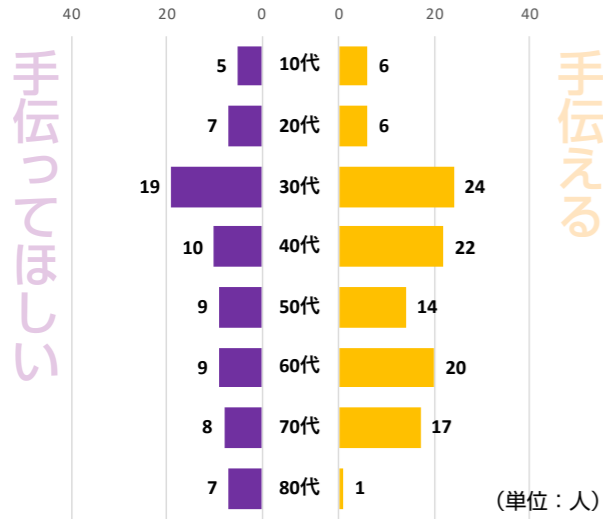
大半の作業項目で
手伝ってほしい < 手伝える

共助の担い手となる住民は、潜在的にかなりの人数がいる！

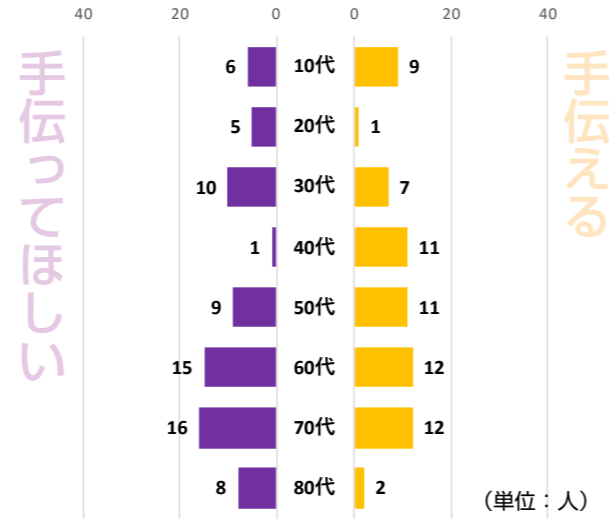
手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神納東地域 (2023)

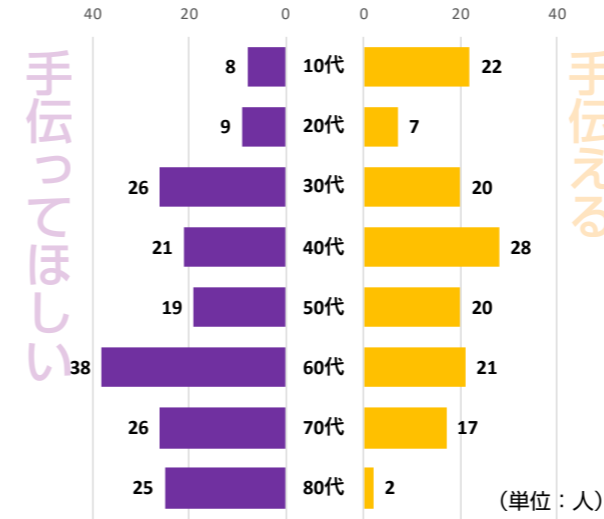
7. 子守や送迎などの支援



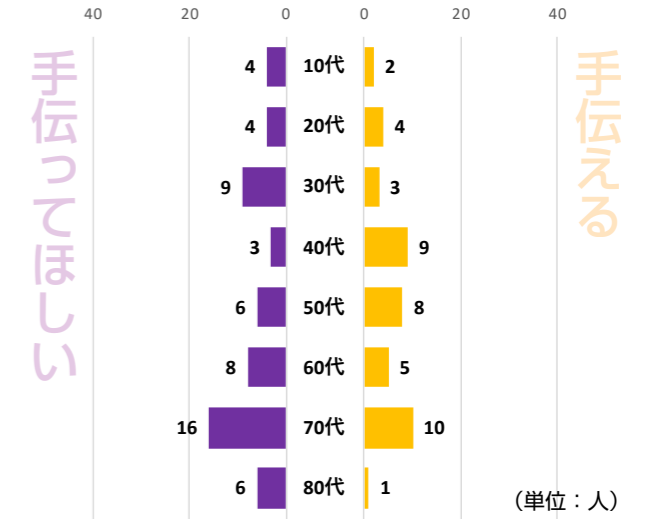
10. 障子・網戸の張り替え



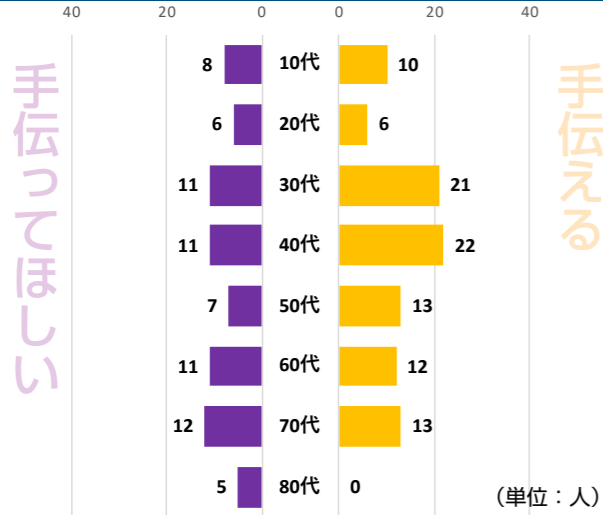
13. 冬場の雪片付け (玄関先の門払い等)



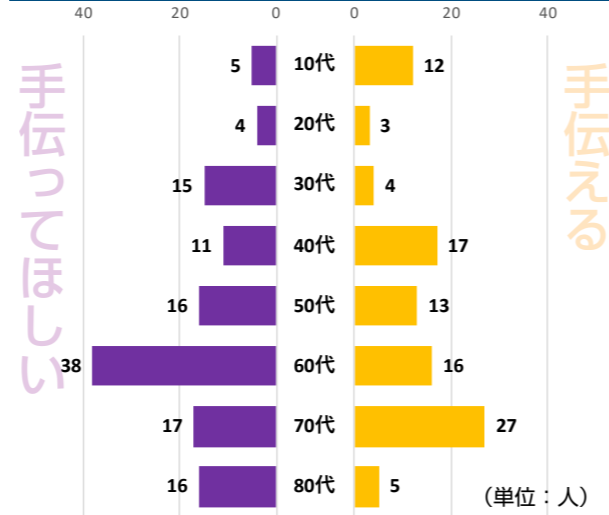
16. 地域への広報や情報発信



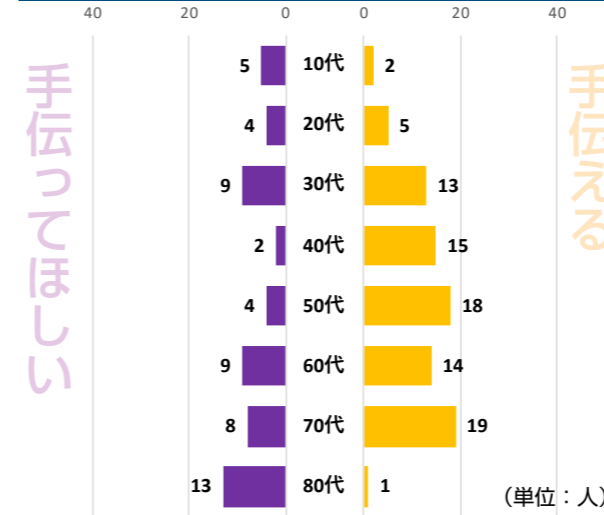
8. 子どもの体験活動や学習支援



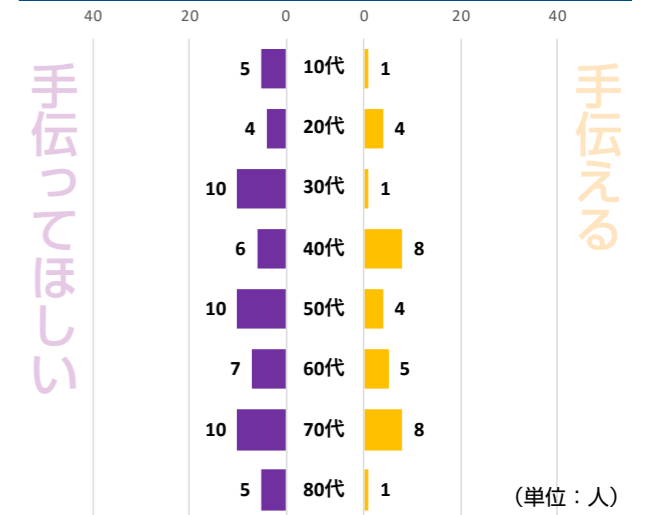
11. 庭作業 (庭の草刈りや木の剪定)



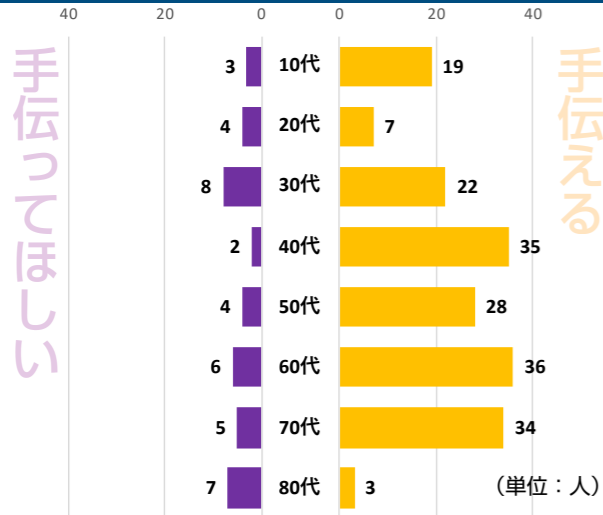
14. 買い物代行や車の乗り合い



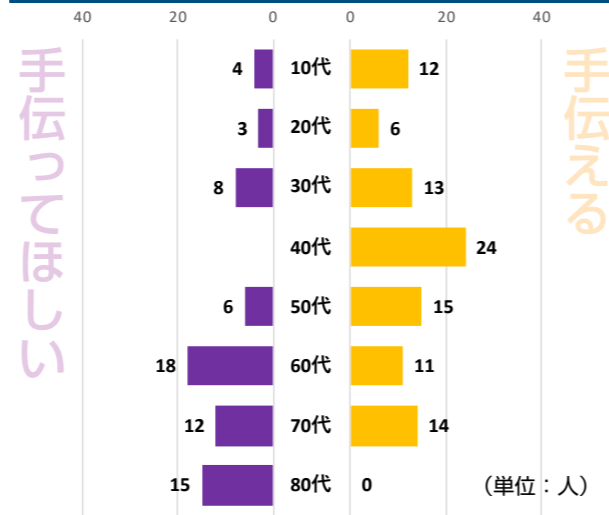
17. 空き家紹介等移住促進



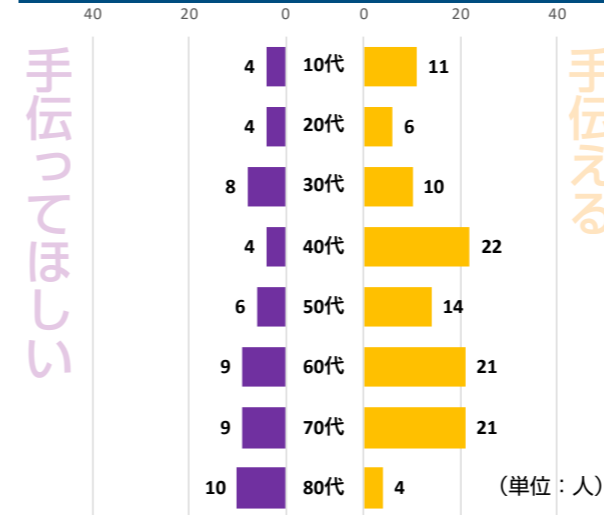
9. 掃除やゴミ出し等手伝い



12. 重い物の移動など軽作業



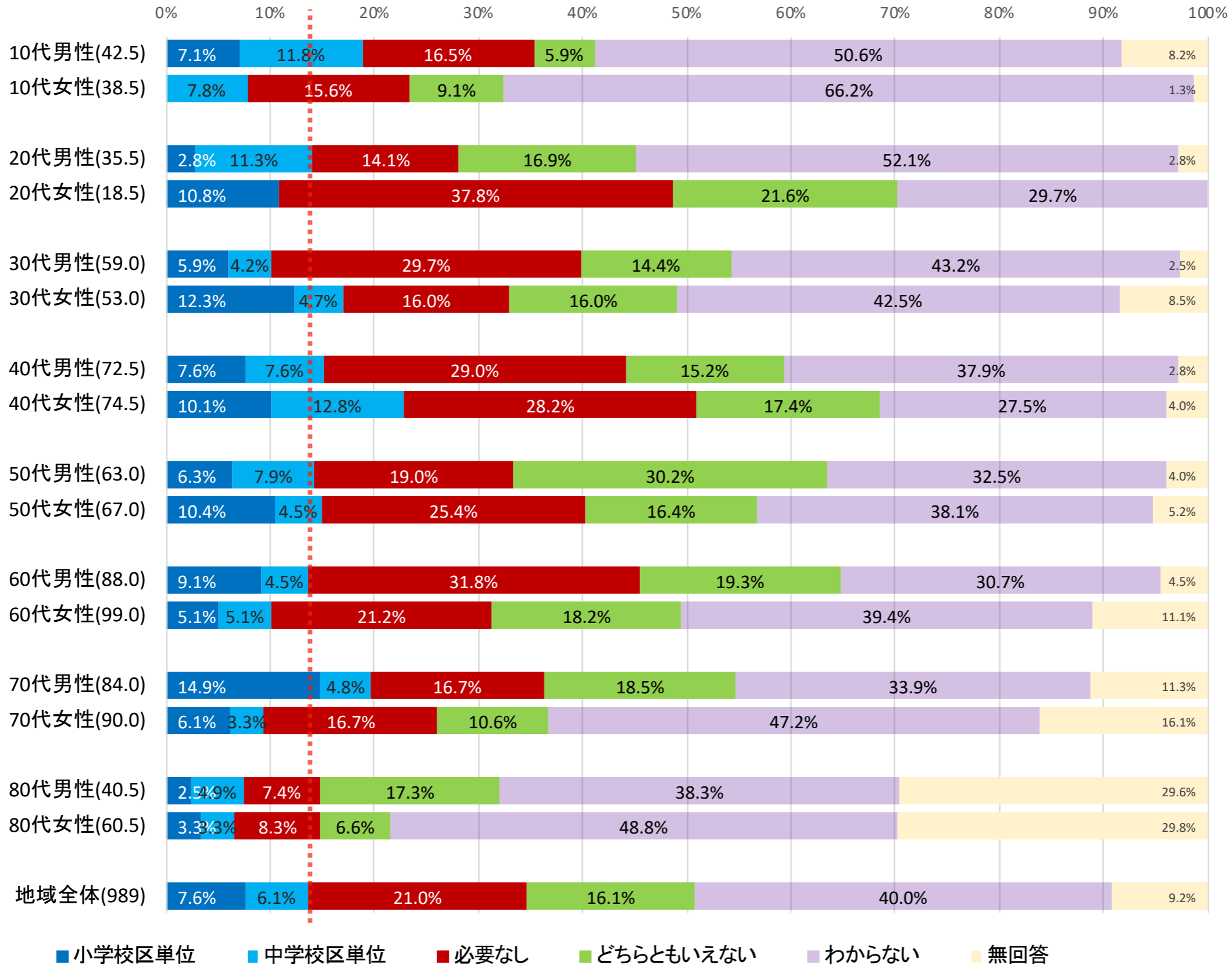
15. 話し相手や相談



まち協を小中学校区に合わせて再編すべきか？

村上市・神納東地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



再編の必要性を感じているのは地域全体では一割強
 必要性を感じていない住民はその倍以上（2〜3割）

路線バスの利用状況

村上市・神納東地域 (2023)

利用状況

ほぼ毎週利用している
月に数回利用している
年に数回利用している
(利用頻度不明で利用)

3人／989人 (0.3%)
3人／989人 (0.3%)
7人／989人 (0.7%)
1人／989人 (0.1%)

利用していない **917**人／989人 (92.7%)

※回答なし：58人

最も利用する路線

村上～瀬波温泉～岩船駅線 **1**人
下関～新町～村上線 **13**人

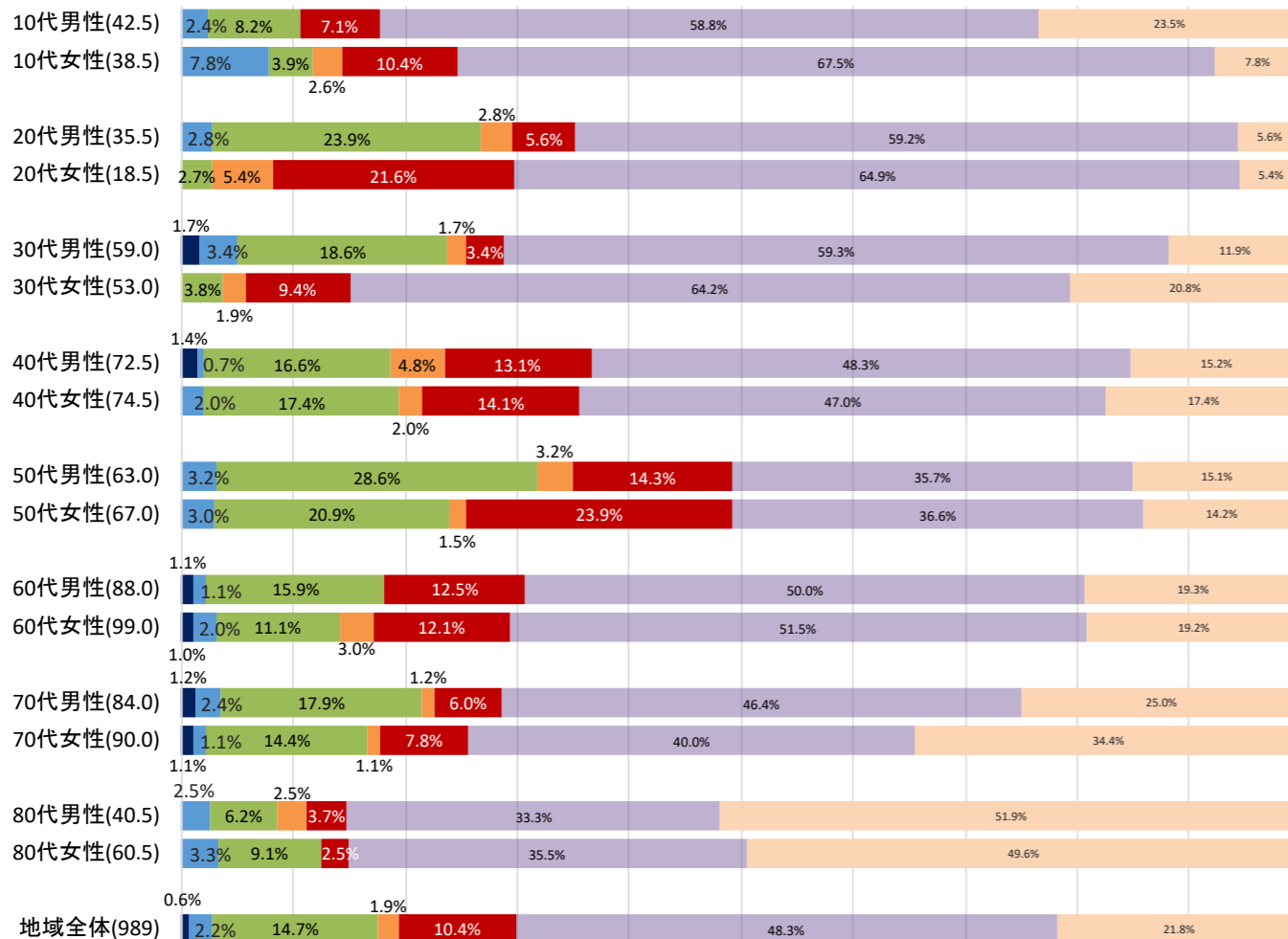
利用目的 (複数回答)

通院：3
家庭の用事：1
通勤通学：5
懇親会出席：1
その他：4

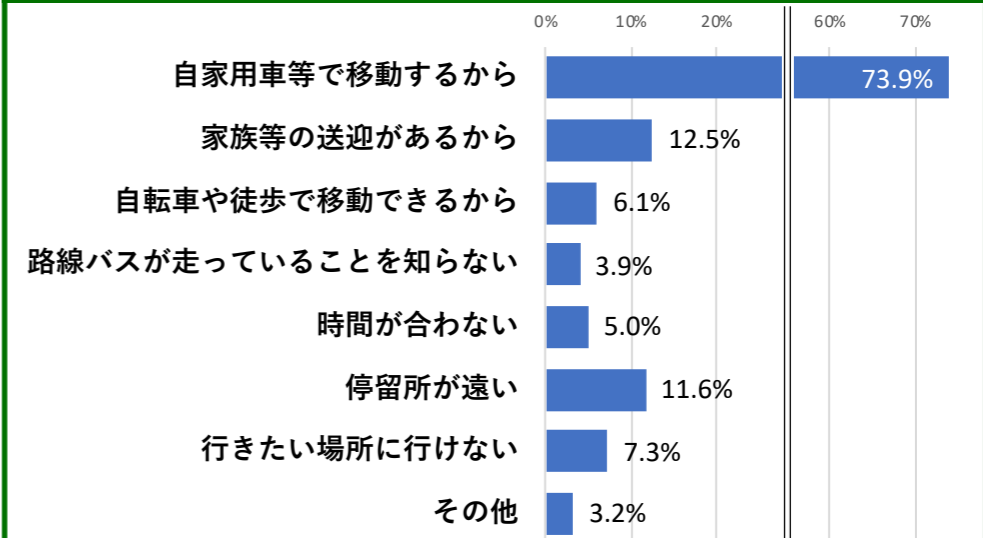
最も利用する降車場所

村上駅：4人
村上営業所：2人
里本庄：2人
上助淵：2人
村上総合病院前：1人
下関営業所：1人
回答無し：2人

路線バスの満足度



利用しない理由 (複数回答)



路線バスの満足度は高くはない。

※そもそも利用していないため約半数が「わからない」と回答

乗り合いタクシーの利用状況

村上市・神納東地域 (2023)

利用状況

ほぼ毎週利用している
月に数回利用している
年に数回利用している

0人 / 989人 (0.0%)

4人 / 989人 (0.4%)

13人 / 989人 (1.3%)

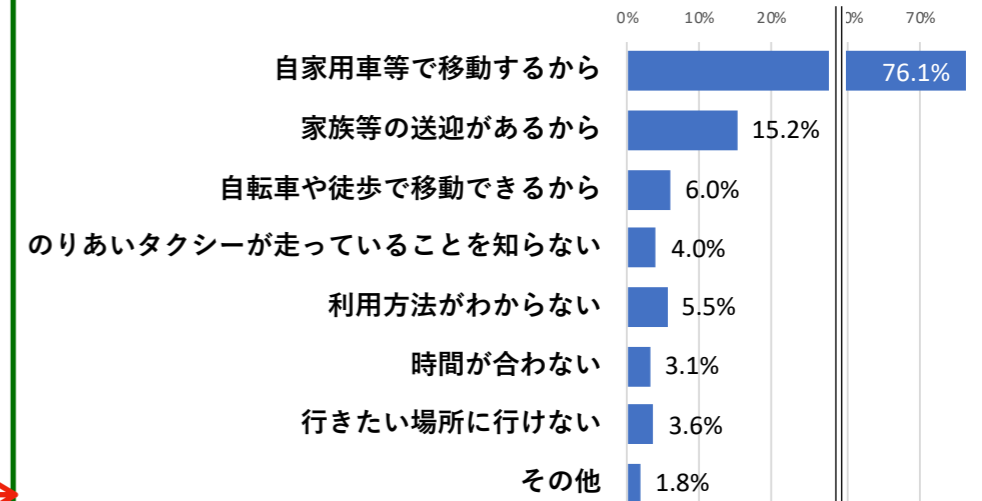
利用していない **929**人 / 989人 (93.9%)

※回答なし：43人

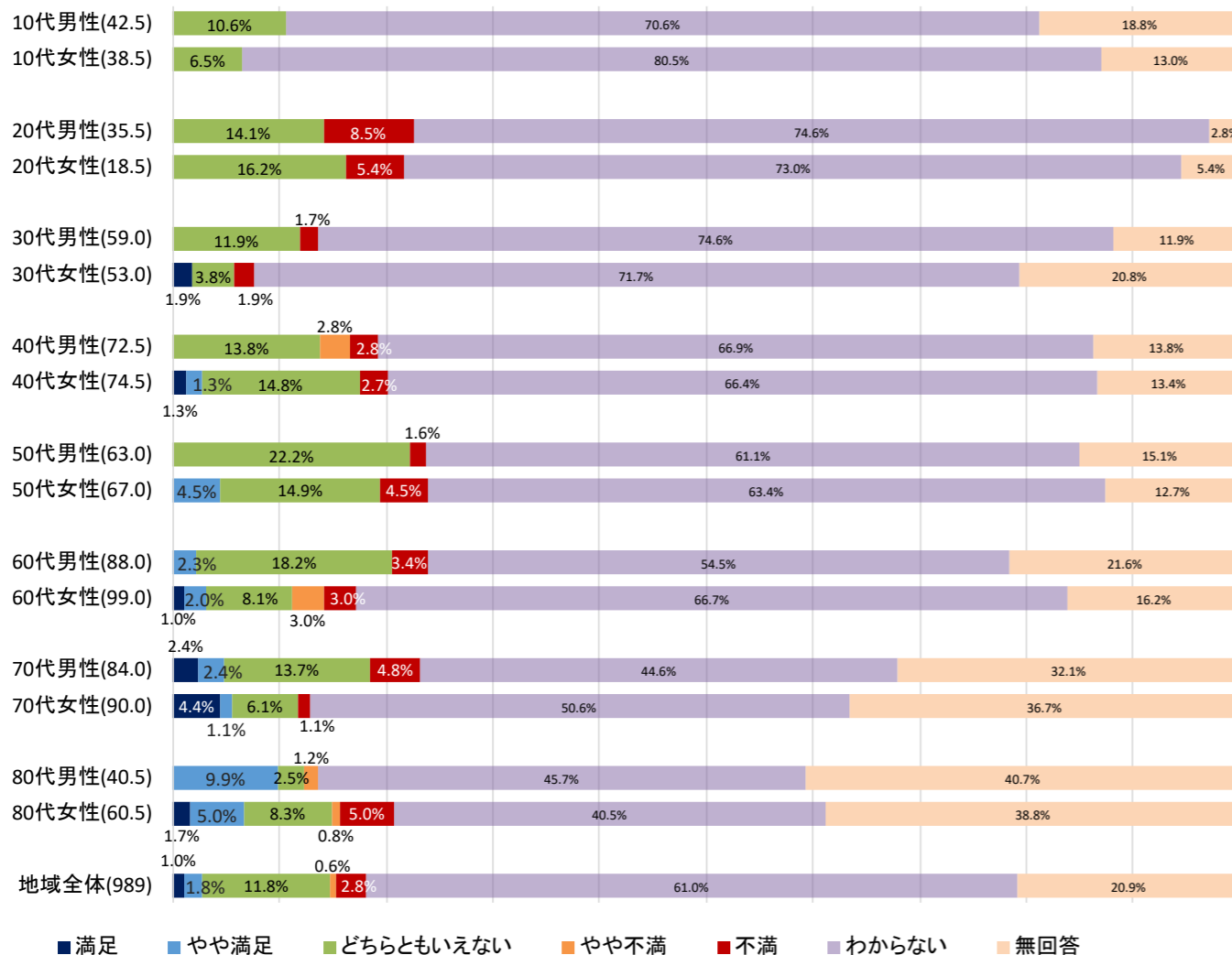
利用目的 (複数回答)

通院：15
買物：1
家庭の用事：1
その他：4

利用しない理由 (複数回答)



乗り合いタクシーの満足度



利用者が少ないこともあり、6割以上が「わからない」と回答

☑農業従事者の86.1%が60代以上

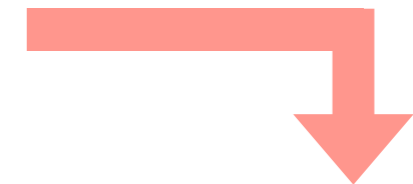
- ▶ このままだと20年後には30人程度（現在の1/4）になってしまいう見込み。



農地の維持管理は
将来的どうなる？

☑80代になり自分で車の運転ができなくなっても、親族等による車での送迎で移動手段は確保されている

- ▶ 80代になると、免許なし（返納含む）の割合が増加し、「車での送迎」が主な移動手段になる割合が高まる。（特に女性）
- ▶ 50～70代の2～4割が単身もしくは夫婦のみ世帯という家族構成。70代の二世帯以上同居の割合は約5割。80代は約7割と高い。
- ▶ 女性は運転に不安を感じている（特に夜間や冬期）割合が男性よりも高い。



親族等による車での送迎を、今後も同じようにあてにできるか？

将来的に公共交通はこのままで本当によいのか？!

☑路線バス・乗り合いタクシーはほとんど利用されていない

- ▶ 月数回以上、路線バスを利用しているのは0.6%、のりあいタクシーは0.4%という状況。



☑ 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいる

- ▶ 20代女性は7割が集落内に相談相手がいらない。
- ▶ 40代以下は集落内で相談相手がいる割合が平均以下。
- ▶ 20代女性・80代男性は半数以上が地区内にも相談相手がいらない。

若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

☑ 4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 30～70代は半数前後が参加。
- ▶ 関心あり＋不参加はどの年代でも3～6割いる。
- ▶ 女性は「関心あり＋不参加」の割合が男性よりも高い。
- ▶ 20代男性は「関心なし＋不参加」が1/3以上。
- ▶ 前回調査（H29）と比較すると、全体的に参加率は微増。10代・20代女性は関心を持っている割合が上昇しているが、20代男性・40代女性は「関心なし＋不参加」の割合が上昇。

参加の機会・方法のさらなる多様化を！

☑ 20～50代で土曜日が毎週休日であるのは4割前後。日曜日が毎週休日なのは6割前後という状況。

- ▶ 働いている世代は、必ずしも土曜日が休日ではない。

☑近所づきあいについては、半数以上が「悩みなし」

- ▶ 30～60代は、「わずらわしさ」が若干高め。
- ▶ 60代は「仕事・行事が多くて忙しすぎる」の割合が高く、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

☑5割以上が移住・定住者の受け入れは必要と考えている

- ▶ 50～60代および30・70代男性は「必要」という回答が6割以上。

積極的に受け入れることを望む声が多い

☑他地域との交流の必要性は半数近くが「わからない」

- ▶ どの年代も賛否が半々もしくは男女で異なっている。

地域としてはあまり積極姿勢ではない

☑誇りに思う地域資源（トップ5） 括弧内は前回調査（H29）からの増減

- ①景観・自然環境（36.8%） ▲3.4%
- ②暮らす人々（19.5%） ▲11.2%
- ③特産物（16.1%） +0.5%
- ④行事（14.1%） ▲9.6%
- ⑤助け合いなどの社会関係（12.7%） ▲9.8%

前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。

☑ 「この地域に住み続けたい」は地域全体では6割以上

- ▶ 10代は「住み続けたいと思わない」が2割以上と全世代で最多。
- ▶ 20～40代女性の定住意向は3～4割と低め。（ただし「わからない」も4～5割）
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、10代男性と20～40代女性の定住意向が大きく低下。

☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で4割以上

- ▶ 10代と40代女性は「思わない」の方が多い。
- ▶ 10代と20～40代女性は「住み続けてほしい」が2割前後。
- ▶ 40代以下は「わからない」が約半数。
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、10代男性・20～30代女性・40代の子どもの定住希望が大きく低下。

☑ 地域全体では6割以上が「地域に愛着がある」

- ▶ 10代の愛着度は地域全体とほぼ同じ。（前回調査よりも若干高い）
- ▶ 20～40代女性の愛着度は4割前後。（前回調査（H29）に比べて低下）

「わからない」が多いということは、これからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りていないことが要因!?

☑まち協事業の認知度

- ▶ 「ふれあい運動会」「花いっぱいプロジェクト」「広報紙発行」「敬老会支援」は半数以上が認知。
- ▶ 「広報紙の発行」「HP・SNS等での情報発信」は10代の認知度が低め。
- ▶ 10代は防災・交流への関心が他世代よりも高めだが、関連する協議会事業の認知度は低い。また、集落活動や福祉関連事業の認知度も同様に低い。

集落活動や福祉関連の取り組み内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？

まちづくり協議会の取り組みが若年層（特に10代）に十分に伝わっていない可能性あり。

☑まち協事業の重要度（トップ5）

①集落支援事業

<特定の年代で重要度が高い事業>

②3地域合同防災研修会

【10～20代】 神納小・神林中との連携・事業協力
神納東ふれあい運動会

③花いっぱいプロジェクト

④広報紙の発行

【30～40代】 神納小・神林中との連携・事業協力
HP・SNS等での情報発信

⑤神林地区敬老会支援

<特定の年代で重要度が低い事業>

【10～20代】 神林地区敬老会支援

【30～60代】 神納東ふれあい運動会

【70代～】 神納小・神林中との連携・事業協力
HP・SNS等での情報発信

年代によって意向は異なる。各々の考えをよく吟味して考えている必要がある。

☑日々の暮らしの不安・心配ごと（トップ5）

- ①自分自身の健康面
- ②屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③災害への備えや避難など防災・安全
- ④農業を営む環境や農地・山林の維持管理
- ⑤安定して収入が得られるか

<特定の年代で不安が大きい項目>

【10代】 仲間と集まる場

【20～30代】 子育て環境

【20～50代】 安定した収入・親の介護

【70～80代】 医療・福祉

☑これからの地域づくりで大切なこと（トップ5）

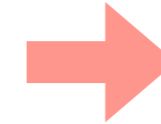
- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく
- ③思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする
- ④安心・安全に暮らせるよう、常日頃から災害への備えをしている地域にする
- ⑤車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域にする

地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている。

ただし、年代によって上位にランキングされている内容は異なる。各々の内容をさらに深掘りしていくことが大切。

☑共助の担い手となる住民は潜在的にいる！

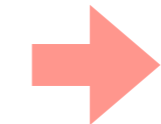
- ▶ 大半の作業項目で、「手伝ってほしい」よりも「手伝える」人数の方が多い。
- ▶ 作業項目によっては、若者・中堅世代も、それなりの人数が「手伝える」と回答。



お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある！

☑まち協再編の必要性を感じているのは1割強

- ▶ 必要性を感じていない住民はその倍以上（2～3割）。



再編の必要性を感じているのは一部のみ。